

---

*News Release*

## 第5回 新型コロナウイルス（新型肺炎/COVID-19）調査

2020/9



## 調査結果のご利用について

「新型コロナウイルス感染症についての緊急アンケート調査レポート」(以下、当調査レポート)の著作権は、株式会社eヘルスケアに帰属します。  
当調査レポートは、教育研究上の目的を含め、公序良俗に反しない限り以下の条件においてご利用いただくことができます。

・ご利用には出典の記載が必要です。

例)「第5回 新型コロナウイルス感染症についての緊急アンケート調査レポート(2020'8)」株式会社eヘルスケア  
WEB媒体で掲載される際は併せて弊社サイトへのリンクをお願いします。

(リンク先URL:<https://www.ehealthcare.jp/>)

- ・出版物やその他の印刷物などへのご利用の場合、発行の際に弊社宛に一部お送りください。
- ・WEB媒体などのご利用の場合、事後でも構いませんので下記の宛先までご一報ください。  
次回の調査時など、一般への公開前に優先して調査レポートをご案内させていただきます。
- ・当調査レポートは細心の注意を払って作成しておりますが、内容の正確性については一切保証いたしません。
- ・ご利用に関して生じたあらゆる損害等についても、理由の如何に関わらず、当社は一切責任を負いません。
- ・ご利用に関して利用者が当社に損害を与えた場合は、利用者は当社にその損害を賠償する責任を負います。
- ・当社はご利用開始後であっても利用者に対して提供を撤回することができます。

当調査レポートの追加データの提供や共同研究などのご依頼も受け付けております。

基本的に、費用等のご負担は必要ありませんので、お気軽にご意見、ご希望をお寄せください。

## 【お問い合わせ窓口】

株式会社eヘルスケア

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-8 第2紀尾井町ビル1F

Email: [info@ehealthcare.co.jp](mailto:info@ehealthcare.co.jp)

問い合わせ先: 「第5回 新型コロナウイルス(新型肺炎/COVID-19)調査」担当窓口 森田真一

## 目的

4月、5月、6月に行った調査結果と比較するかたちで、診療現場にいる医師の実感を掴み、医療機関の対応状況、医療資材の不足状況、医師の意識の変化を見る。

## 調査方法と対象者

インターネットアンケート 新型コロナウイルスの初回(3月)調査回答者 817件に発信

## 回答完了数

561回答 (68.7% 対発信数)

## 調査期間

	調査名	調査期間
Wave 1	3月調査	3月17日(火) 10:00~3月23日(月) 正午
Wave 2	4月調査	4月16日(木) 10:00~4月21日(火) 9:00
Wave 3	5月調査	5月20日(水) 10:00~5月25日(月) 9:00
Wave 4	6月調査	6月23日(火) 10:00~6月29日(月) 9:00
▶ Wave 5	8月調査	8月25日(火) 10:00~8月31日(月) 9:00

当資料内で使用している用語や、閲覧する際に注意を要する点などについて説明します。

- %表示について  
⇒グラフなどで利用されている%表示の数値は、小数点以下を四捨五入しており、合計で100%にならない場合があります。
- 医師の主診療科目や勤務医療機関の所在地域について  
⇒3月調査の分析では2018年の属性調査時の取得情報を使用しました。  
4月調査内で属性を確認したことにより変更があった医師がいます。
- 3月調査、4月調査、5月調査、6月調査について  
3月調査は、「第1回新型コロナウイルス(新型肺炎/Covid-19)調査」(3/17～3/23実施)を指します。  
4月調査は、「第2回新型コロナウイルス(新型肺炎/Covid-19)トラッキング調査」(4/17～4/21実施)を指します。  
5月調査は、「第3回新型コロナウイルス(新型肺炎/Covid-19)トラッキング調査」(5/20～5/25実施)を指します。  
6月調査は、「第4回新型コロナウイルス(新型肺炎/Covid-19)トラッキング調査」(6/23～6/29実施)を指します。  
⇒質問ごとに、どの調査で設問がされたかを各頁下部に記載しています。

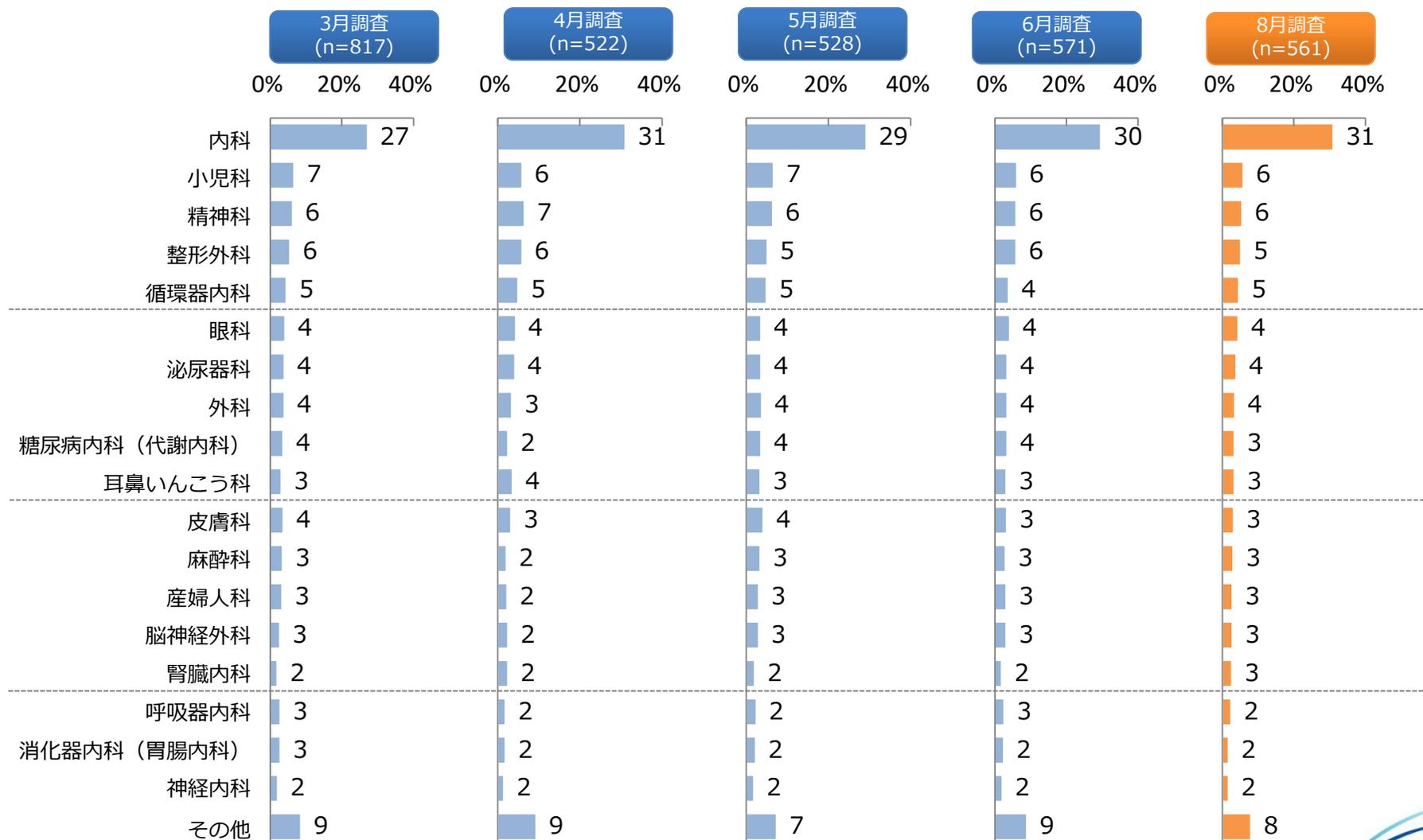
アンケート内の聞き方	実際の期間
3月以降(3月調査にて)	3/1～3月調査実施時(3/17～3/23)
前回調査から現在まで約1か月(4月調査にて)	3月調査実施時(3/17～23)から4月調査実施時(4/17～21)
前回調査から現在まで約1か月(5月調査にて)	4月調査実施時(4/17～21)から5月調査実施時(5/20～25)
前回調査から現在まで約1か月(6月調査にて)	5月調査実施時(5/20～25)から6月調査実施時(6/23～29)
7月下旬から現在までの約1か月(8月調査にて)	7月下旬から8月調査実施時(8/25～8/31)までの約1か月

- SA、MA、OAとは？  
SA: 単一選択回答(シングルアンサーの略)  
MA: 複数選択回答(マルチアンサーの略)  
OA: 選択肢を設けない自由回答(オープンアンサーの略)
- GP / HPとは？  
GP: 診療所・小規模病院(100床未満)  
HP: 中規模以上の病院(100床以上)
- n数が100に満たない調査結果は、参考値としてご覧ください。

# 回答者属性 (1)

- 回答医師の主診療科目は、前回までと同様、内科が3割前後を占めている。小児科、精神科、整形外科、循環器内科が5%以上で続いている。

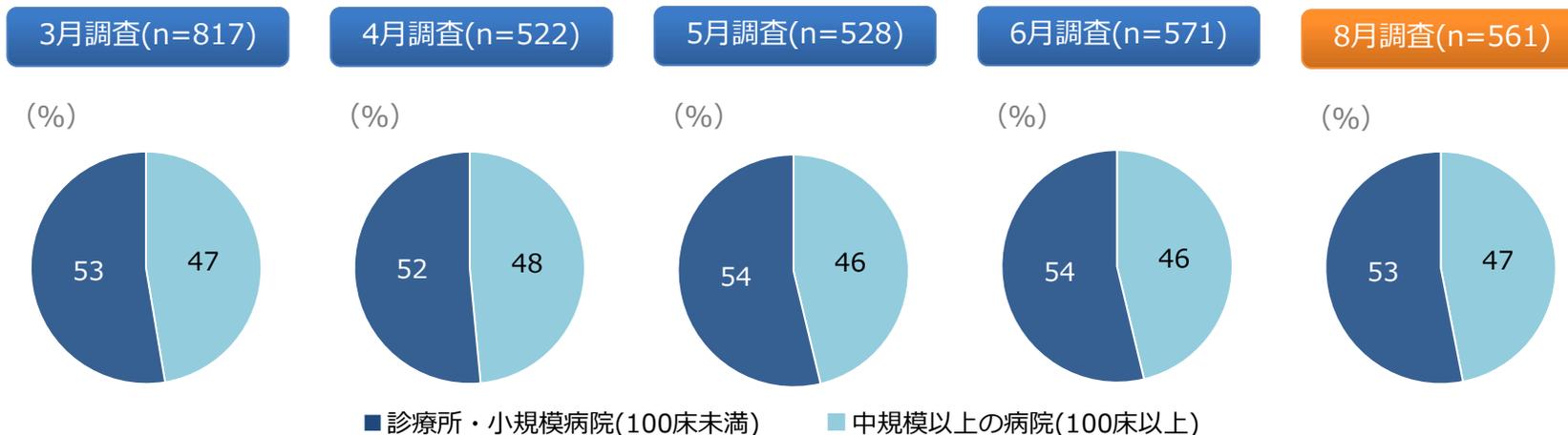
## 主診療科目



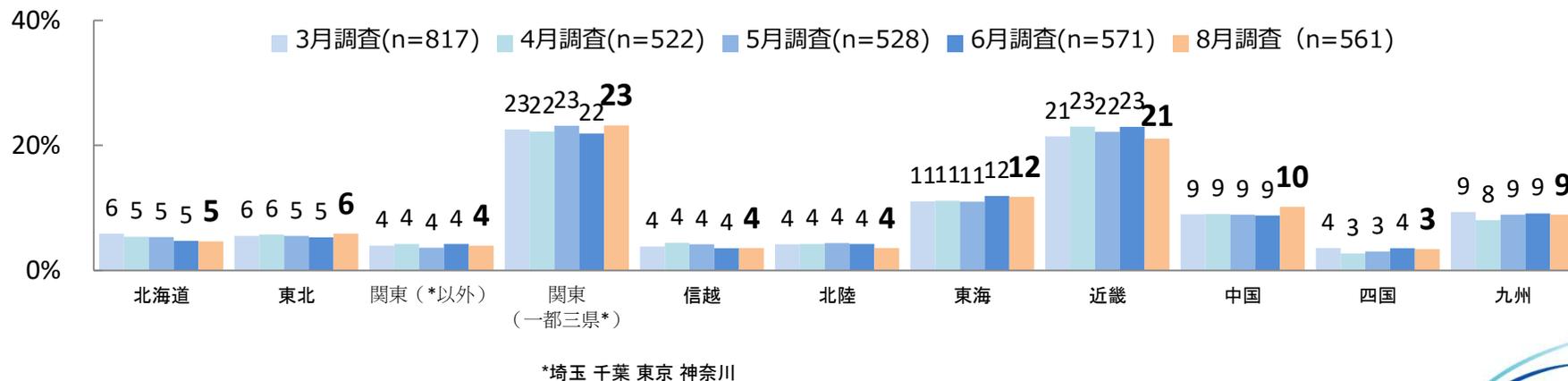
# 回答者属性 (2)

- 「診療所・小規模病院」と「中規模以上の病院」の割合も前回までと同様の傾向で、「診療所・小規模病院」が過半数を占めている。
- 回答医師の地域は、「関東一都三県」と「近畿」とがそれぞれ2割以上を占め、3番目に多い東海を合わせた3大都市圏で過半数となっている。

## 勤務先医療機関の規模



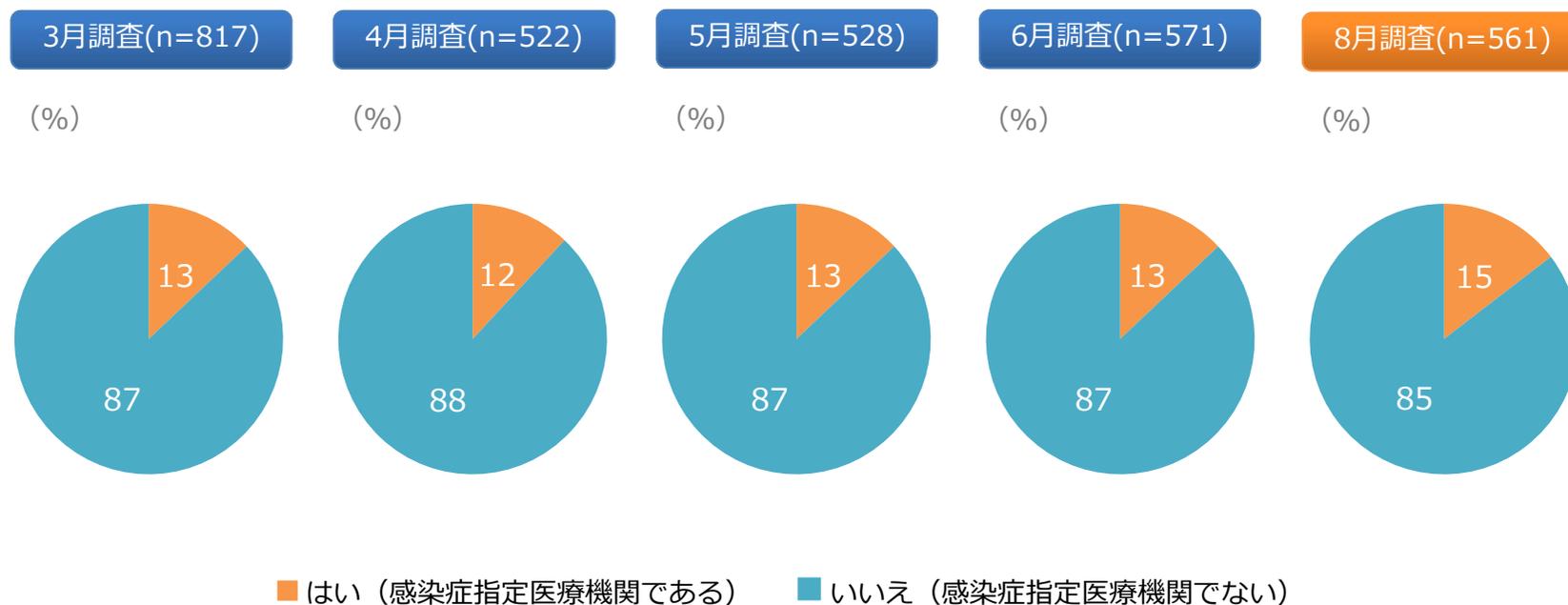
## 地域



# 回答者属性 (3)

- 8月調査回答者には、感染症の指定医療機関に勤める医師が15%含まれた。

## 感染症指定医療機関か

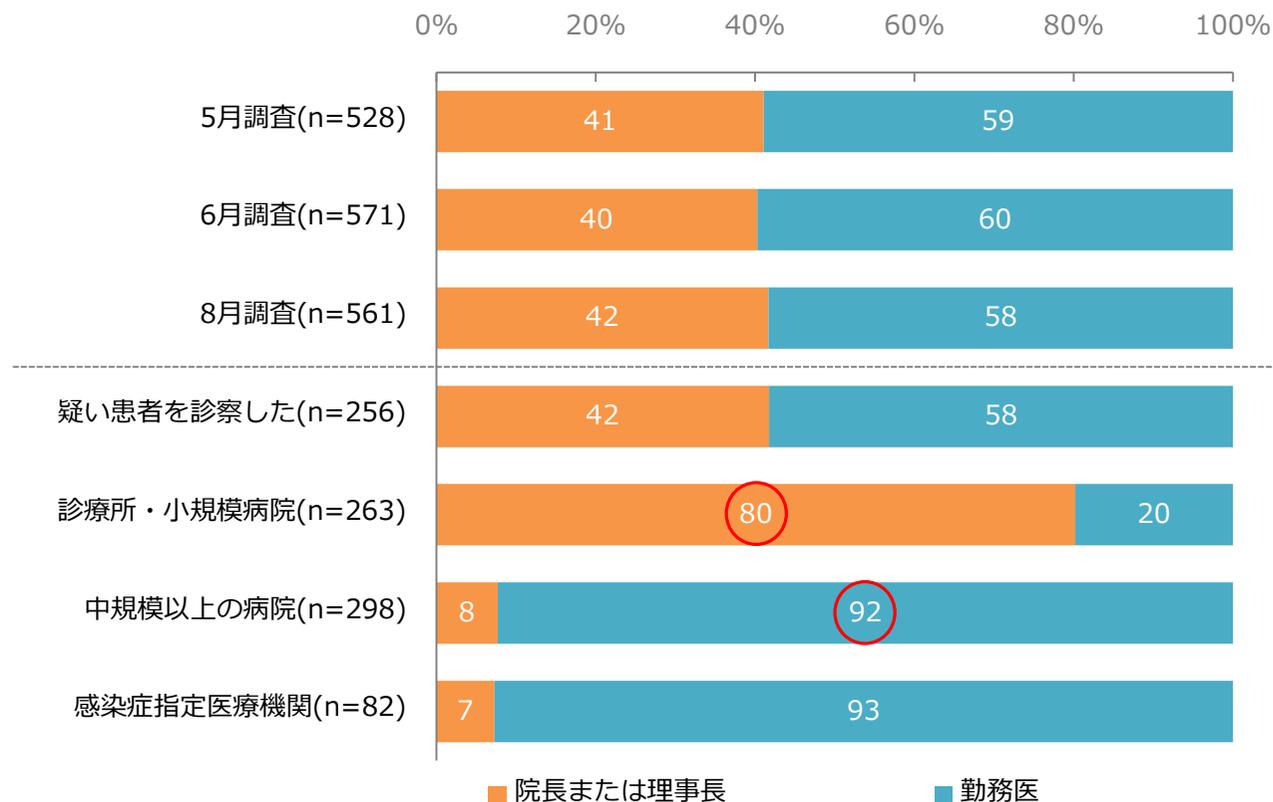


(3月アンケート時質問) お勤めの医療機関は感染症の指定医療機関ですか (SA)

# 回答者属性 (4)

- 回答医師の職責は、当該質問を追加した5月調査以降ほぼ変化なく、「院長または理事長」が全体の約4割、「勤務医」が6割を占める。
- 診療所・小規模病院に限ると、8割が「院長または理事長」。中規模以上の病院では、反対に9割超と大多数が勤務医である。

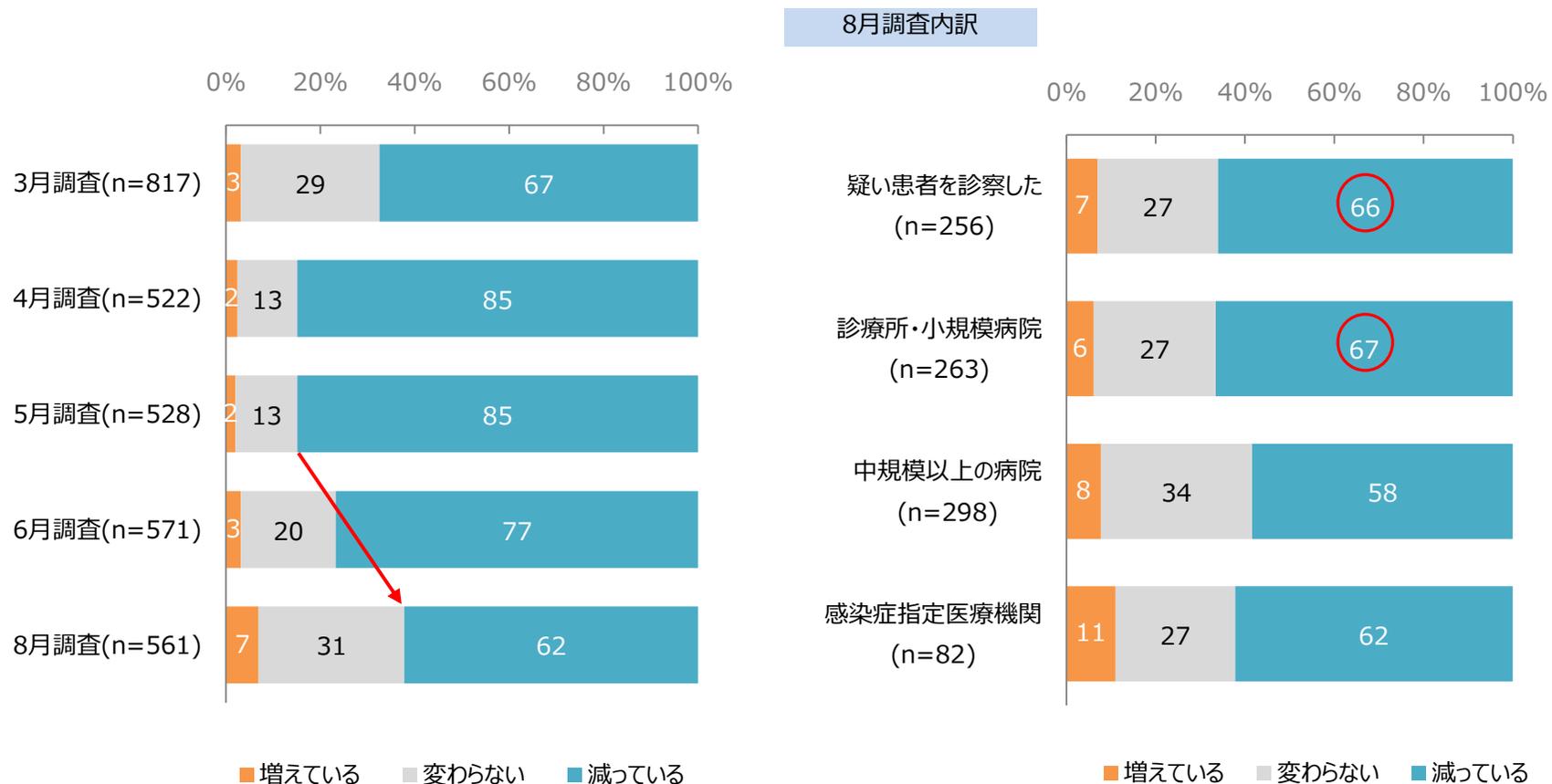
## 医師の職責(5月調査以降)



Q1. 先生が主にお勤めの医療機関での、先生のお立場をお選びください (SA, -/-/5月/6月/8月調査)

# 昨年同時期と比べた来院患者数の変化

- 昨年同時期との来院患者数比較では、4月、5月調査時には85%に達していた「減っている」は、漸次減少傾向にはある。しかし未だに6割超が「減っている」と回答しており、厳しい経営が続いている医療機関が多いことが推察される。
- 新型コロナウイルス感染症の疑い患者を診察した医師、診療所・小規模病院に勤める医師では、「減っている」が3分の2とやや高め。

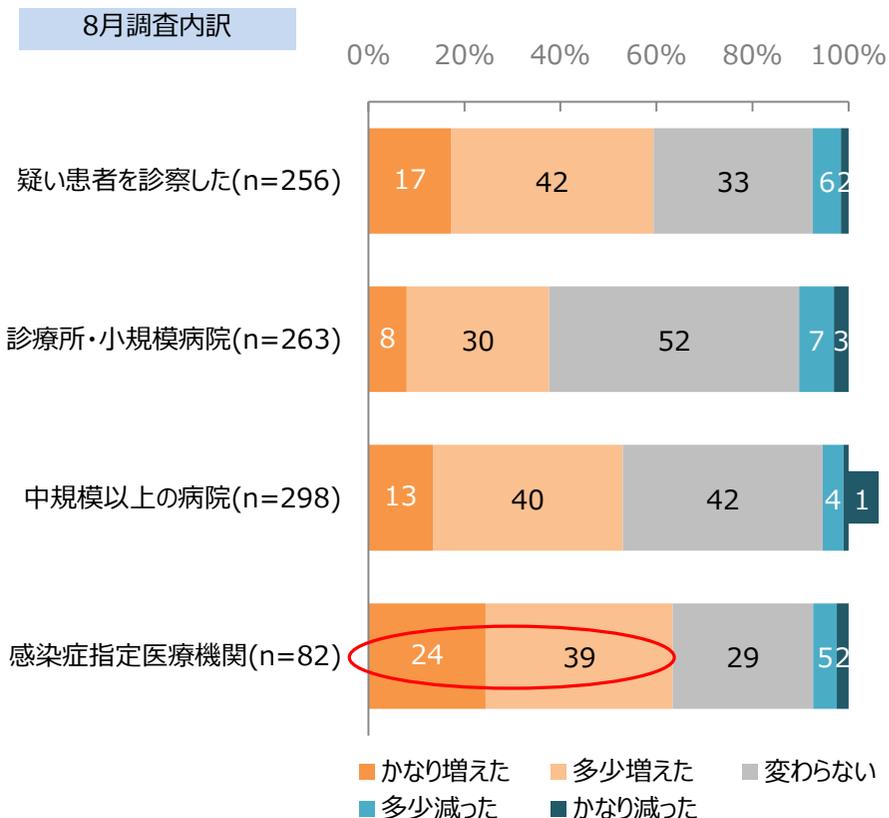
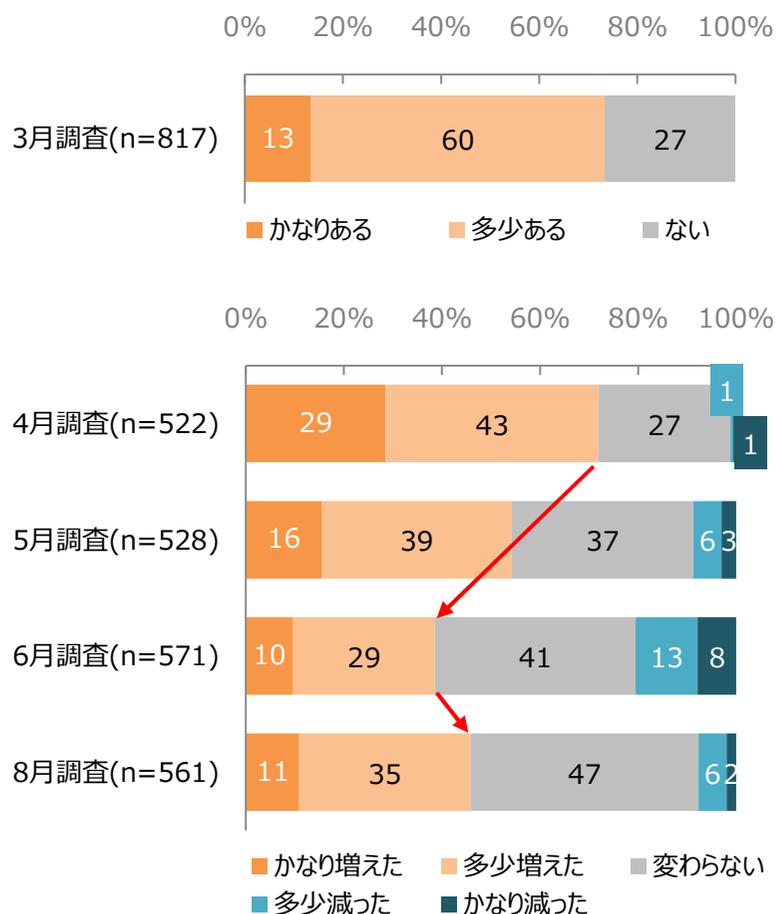


診療所・小規模病院：100床未満の医療機関  
 中規模以上の病院：100床以上の医療機関

Q2. 昨年同時期に比べ、この期間の医療機関全体の来院患者数に変化は見られますか (SA, 3月/4月/5月/6月/8月調査)

# 新型コロナウイルスの相談や問い合わせの変化

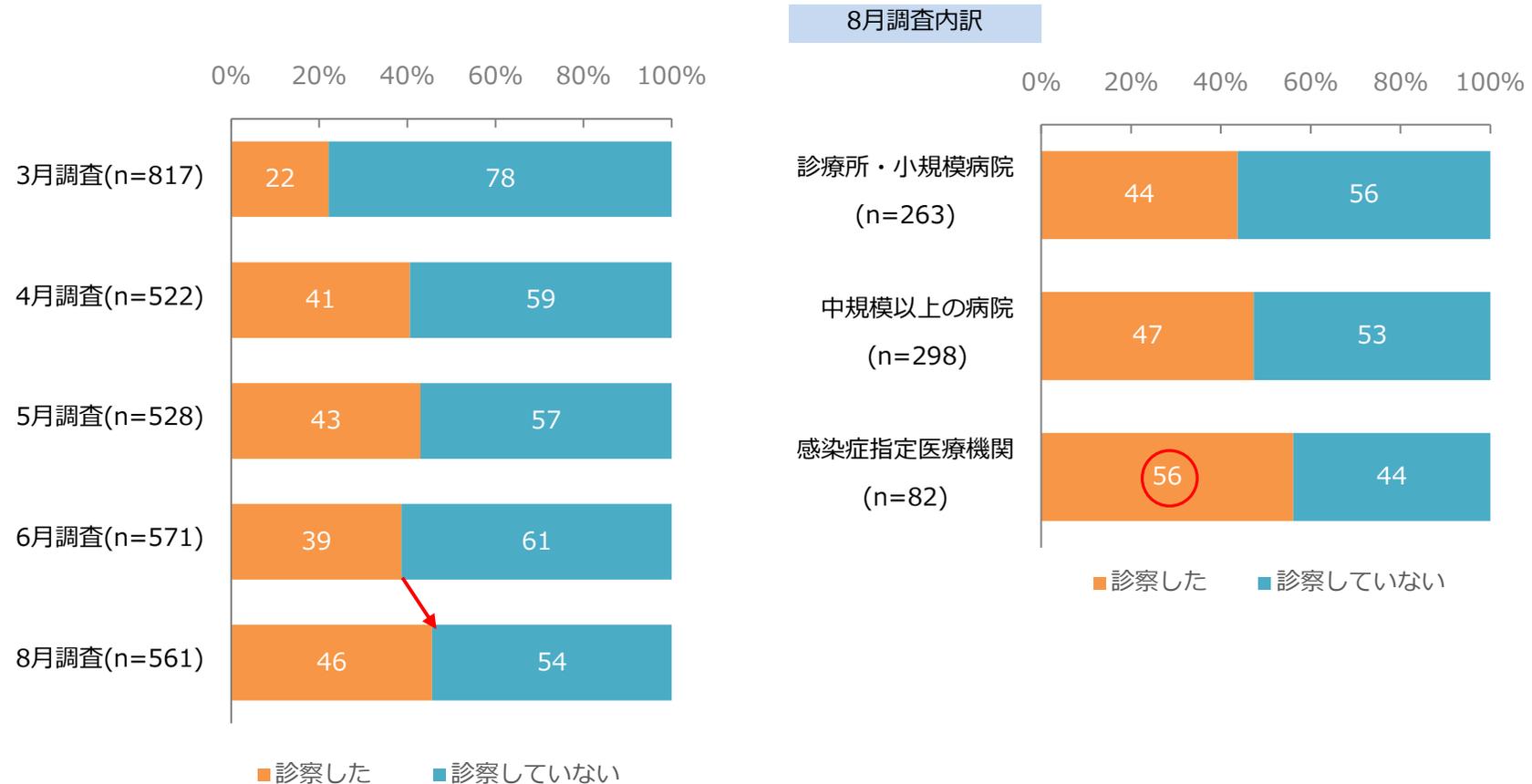
- 新型コロナウイルスの相談や問い合わせは、4月調査以降落ち着きつつあったが、8月調査では再びやや増加に転じた。  
「かなり+多少増えた」は、6月調査よりも7ポイント増。
- 医療機関の規模・種類別では、これまで同様に診療所・小規模病院<中規模以上の病院<感染症指定医療機関の順に「かなり増えた」または「多少増えた」とする回答が多く、最も多い感染症指定医療機関では6割超を占める。



Q3. 先生のお勤めの医療機関では、この期間中、患者さんからの新型コロナウイルスについての相談や問い合わせは変化しましたか (SA, 3月/4月/5月/6月/8月調査)

# 新型コロナウイルス感染症の疑い患者の診察

- 感染再拡大の状況にともない、疑い患者を「診察した」医師も、これまでで最も多い46%となった。
- 「診察した」割合は、診療所・小規模病院でも44%おり、感染症指定医療機関では過半数を占めた。



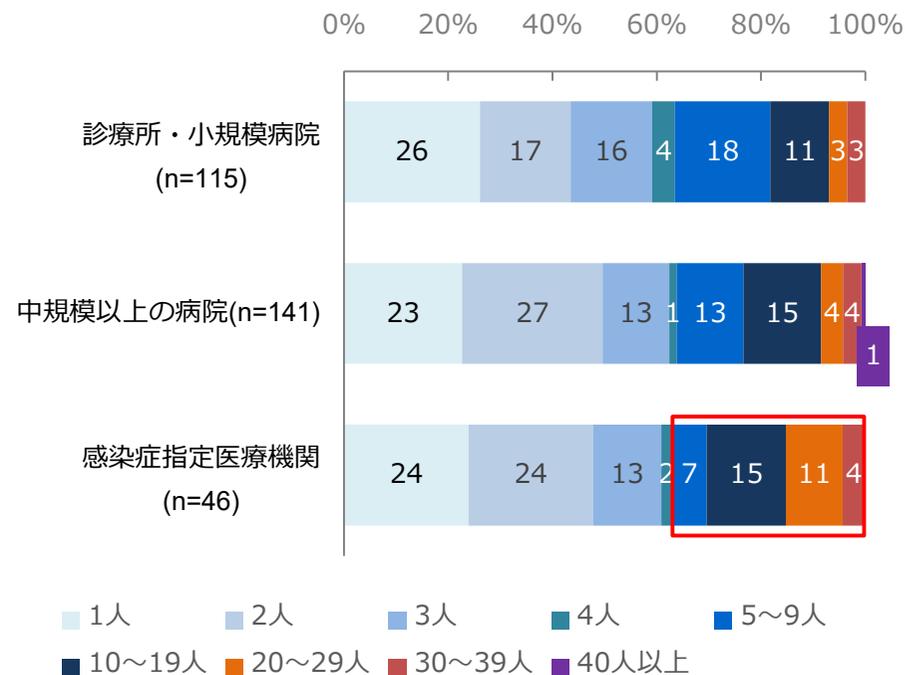
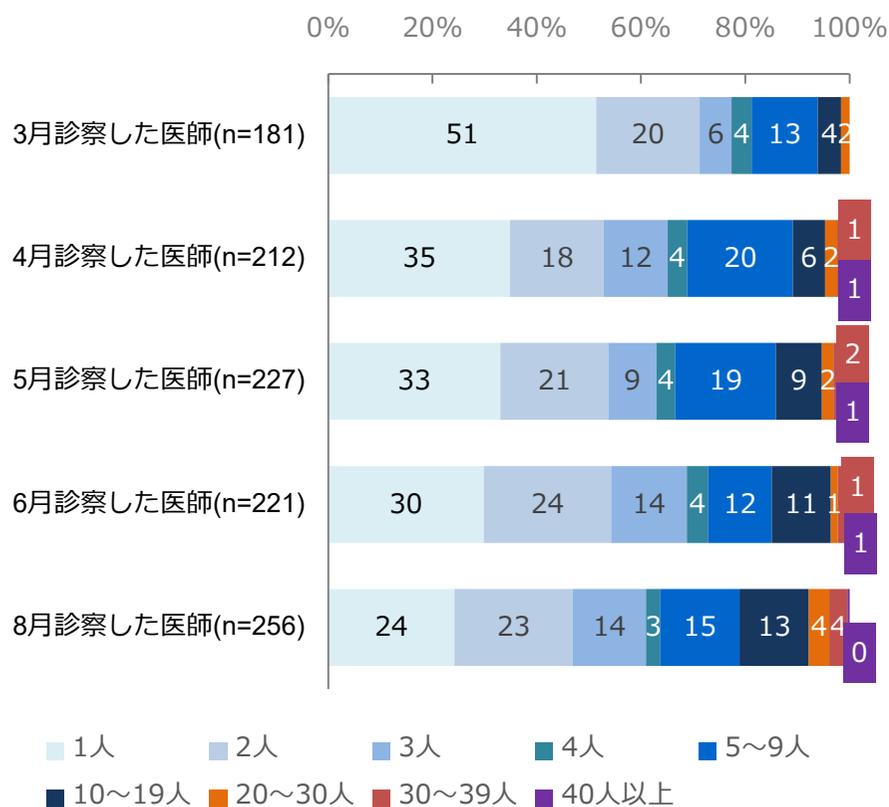
Q4. 先生は、この期間中、新型コロナウイルスに感染の疑いがある患者さんを実際に診察されましたか (SA, 3月/4月/5月/6月/8月調査)

# 新型コロナウイルス感染症の疑い患者診察人数

- 疑い患者診察人数は増加傾向にあり、疑い患者を「2人以上」診察した医師が76%となった。
- 感染症指定医療機関では、「5人以上」の割合が4割弱を占める。

Base: 疑い患者を「診察した」回答者

8月調査内訳



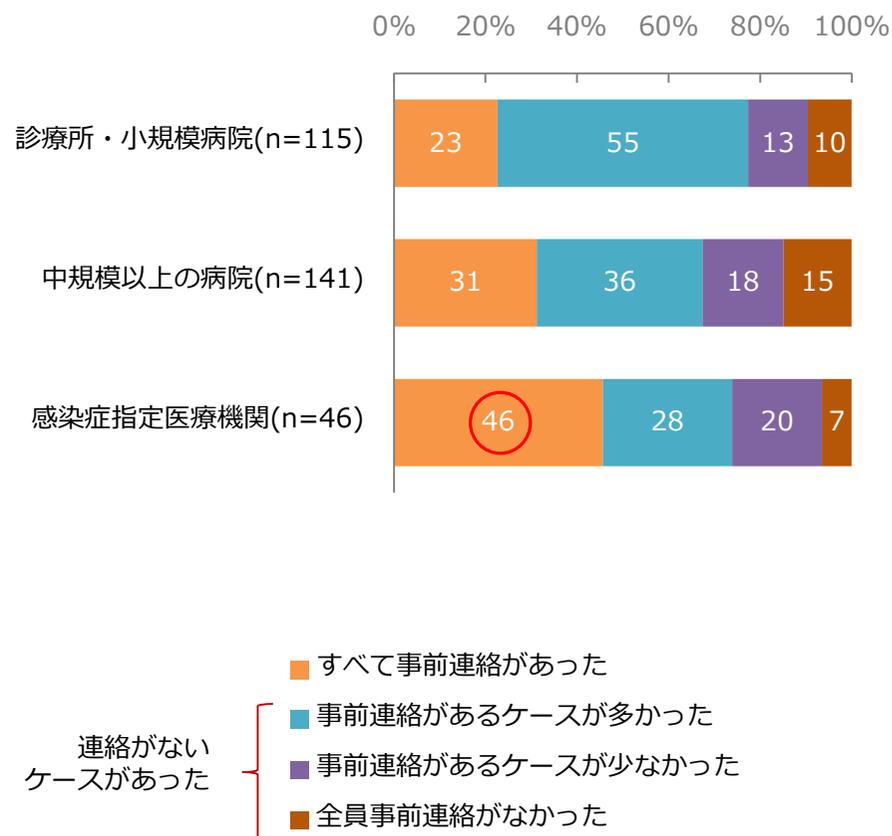
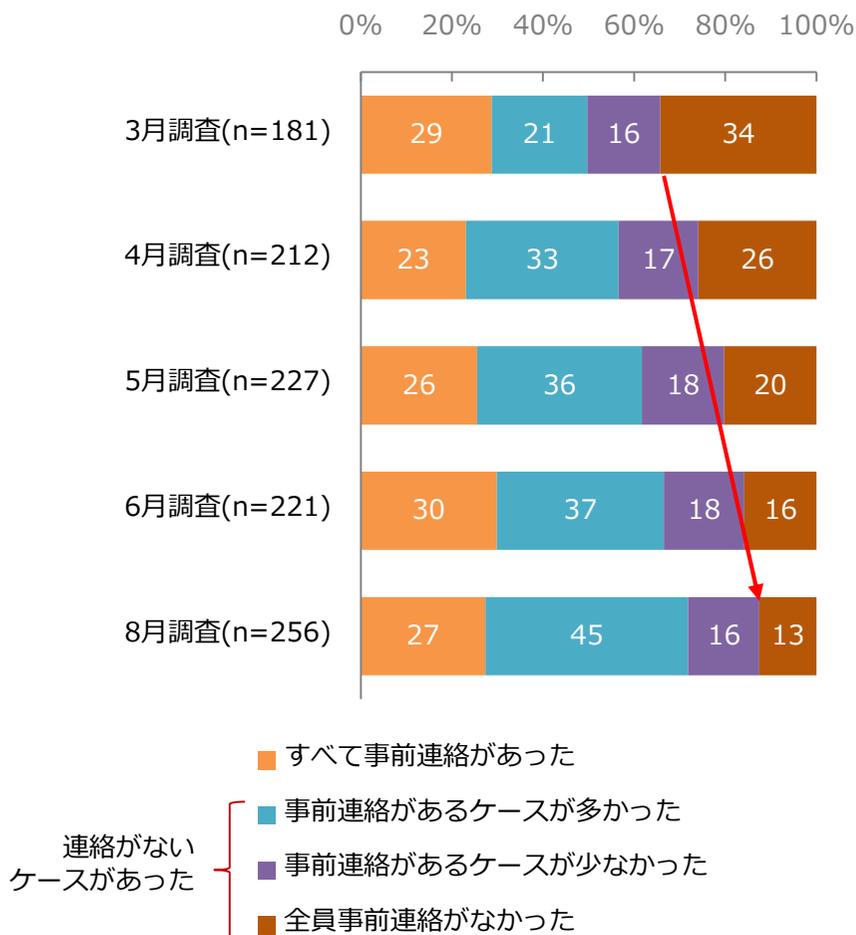
Q4. 先生は、この期間中、新型コロナウイルスに感染の疑いがある患者さんを実際に診察されましたか (SA, 3月/4月/5月/6月/8月調査)

# 疑い患者の来院事前連絡有無

- 疑い患者の来院事前連絡は、「事前連絡があるケースが多かった」が増えてきている。反対に「全員事前連絡がなかった」は減少傾向を示しており、8月調査では13%に留まった。ただし、「連絡がないケースがあった」は3月調査以降7割台に留まり、事前連絡の徹底までには至っていない。
- 医療機関の種別では、感染症医療機関では「すべて連絡があった」の割合が46%を占めた。

Base: Q4疑い患者を「診察した」回答者

8月調査内訳



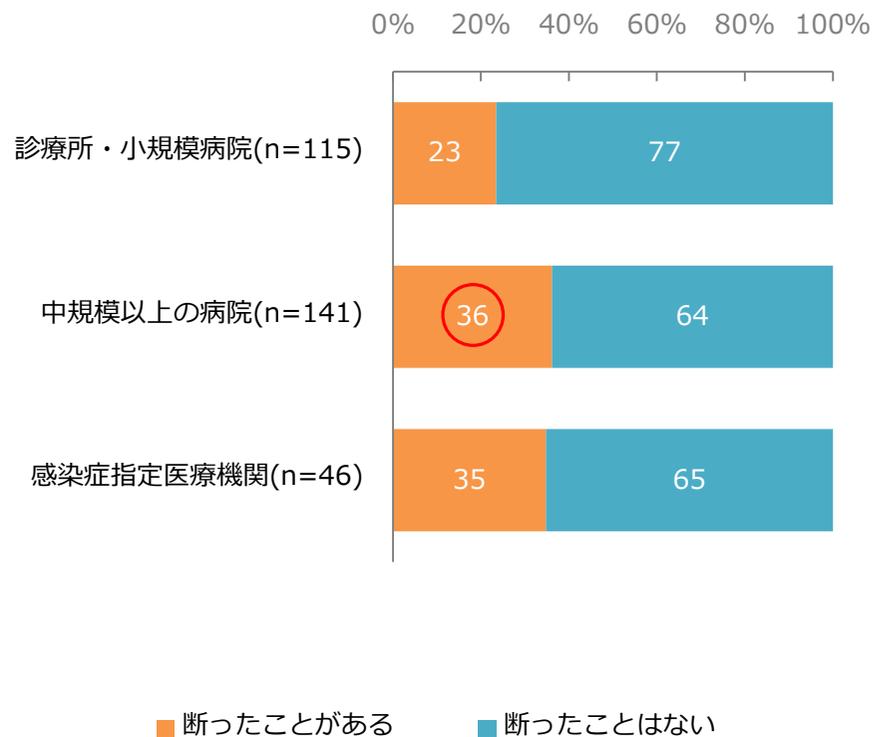
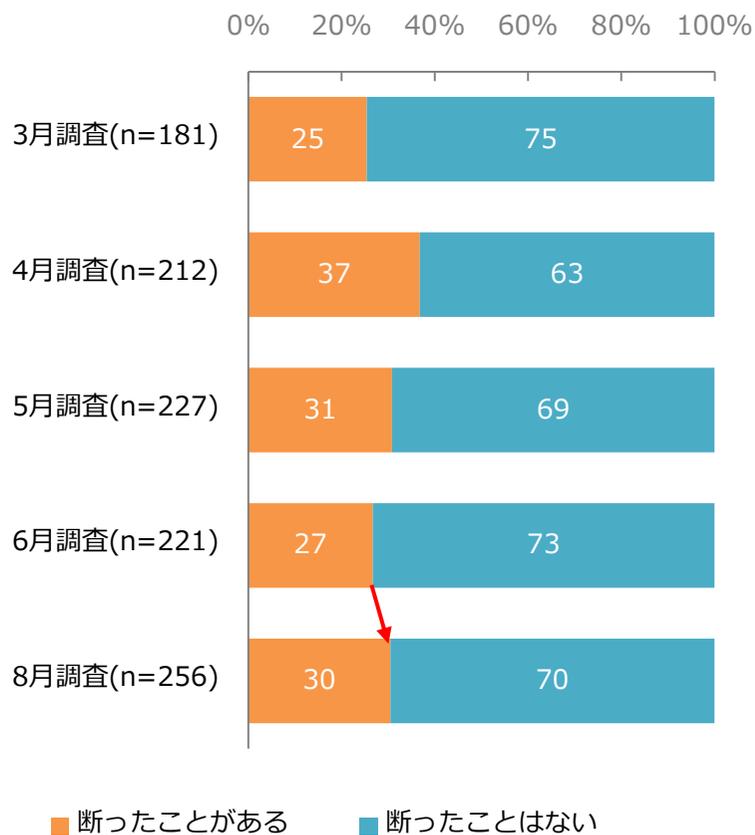
Q5. 疑いのある患者さんは、事前に医療機関に電話やメールなどで連絡したうえで来院しましたか (SA, 3月/4月/5月/6月/8月調査)

# 疑い患者の診察を断った経験

- 疑い患者を「断ったことがある」とした医師は、6月調査より僅かに増え、3割となった。
- 疑い患者の受診がより多いと見られる中規模以上の病院、または感染症指定医療機関では、「断ったことがある」が3割以上と、診療所・小規模病院よりやや高め。

Base: Q4疑い患者を「診察した」回答者

8月調査内訳



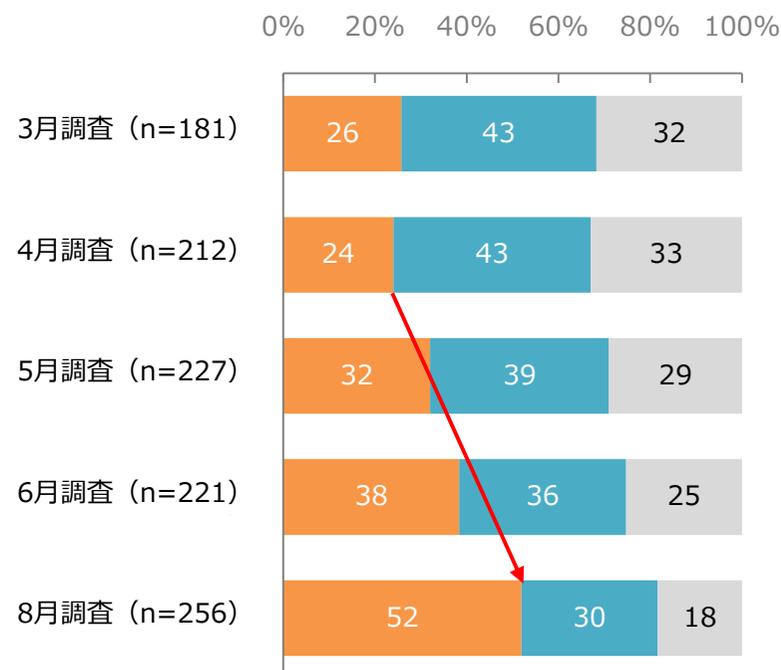
Q6. 疑いのある患者さんの診察を断ったケースがありますか (SA, 3月/4月/5月/6月/8月調査)

# 新型コロナウイルスの検査状況

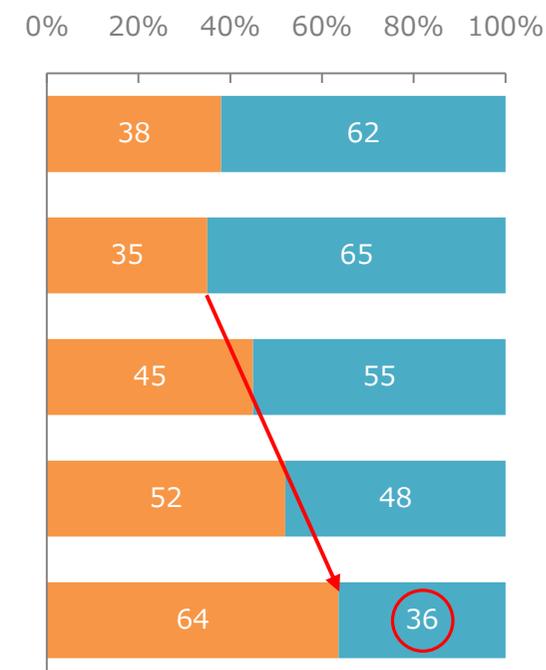
- 医師が「検査を必要と判断して、全て検査を行った」割合が、8月調査で、はじめて疑い患者を診察した医師の半数を超えた。
- 検査が必要と判断した医師のなかでの割合にすると、「全て検査を行った」が約3分の2。残りの約3分の1は、「検査が行えない場合があった」と回答している。

Base: Q4疑い患者を「診察した」回答者

Base: 「医師が検査を必要とした」回答者



- 医師が検査を必要と判断をして、全て検査を行った
- 医師が検査を必要と判断したが、検査は行えない場合があった
- 検査の必要性はなかった



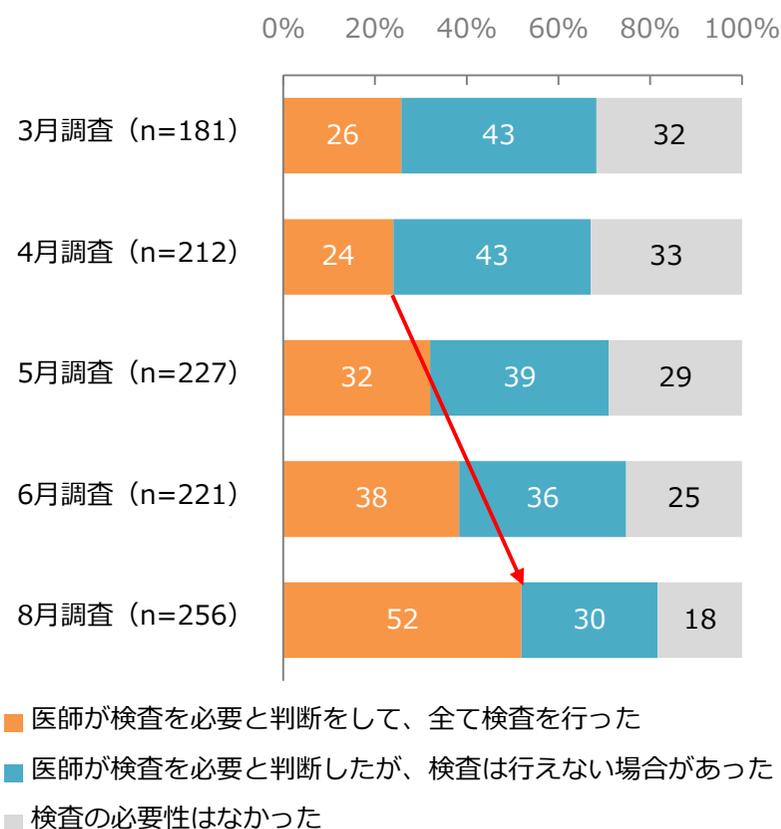
- 医師が検査を必要と判断をして、全て検査を行った
- 医師が検査を必要と判断したが、検査は行えない場合があった

Q7. この期間中、疑いのある患者さんに対し、新型コロナウイルスの検査を行われましたか (SA, 3月/4月/5月/6月/8月調査)

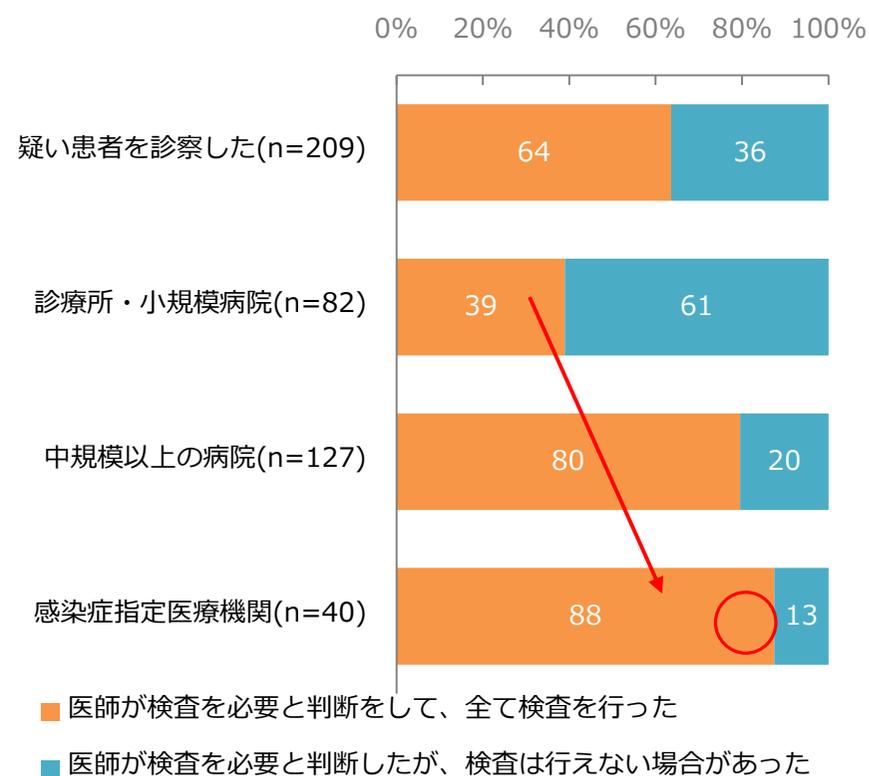
# 新型コロナウイルスの検査状況

- 医師が「検査を必要と判断して、全て検査を行った」割合が、8月調査で、はじめて疑い患者を診察した医師の半数を超えた。
- 検査が必要と判断した医師のなかでの割合にすると、「全て検査を行った」が約3分の2。残りの約3分の1は、「検査が行えない場合があった」と回答している。

Base: Q4疑い患者を「診察した」回答者



Base: 「医師が検査を必要とした」回答者

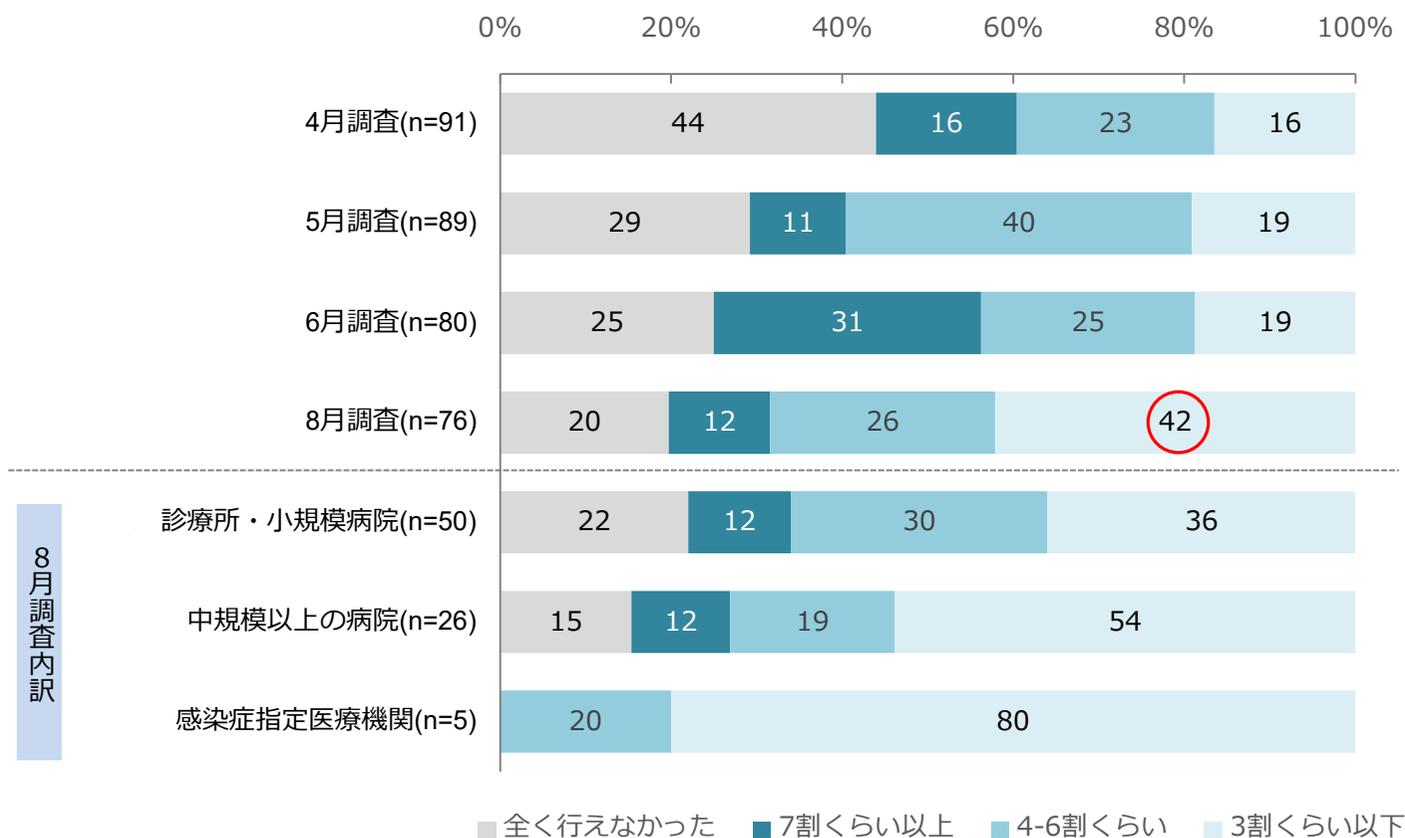


Q7. この期間中、疑いのある患者さんに対し、新型コロナウイルスの検査を行われましたか (SA, 3月/4月/5月/6月/8月調査)

# 新型コロナウイルスの検査状況

- 検査を行えない場合があった医師にその割合を尋ねた。8月調査では「3割くらい以下」が42%に増加、検査を行えなかった割合が6月調査よりも下がる傾向にある。
- 医療機関の規模別では、診療所・小規模病院 > 中規模以上の病院 > 感染症指定医療機関の順に、検査を行えなかった割合が小さくなる。

Base:「医師が検査を必要と判断したが、検査は行えない場合があった」回答者



Q8. 検査が必要だった患者さんの検査が行えなかった割合を教えてください (SA, -/4月/5月/6月/8月調査)

# PCR検査にかかる日数

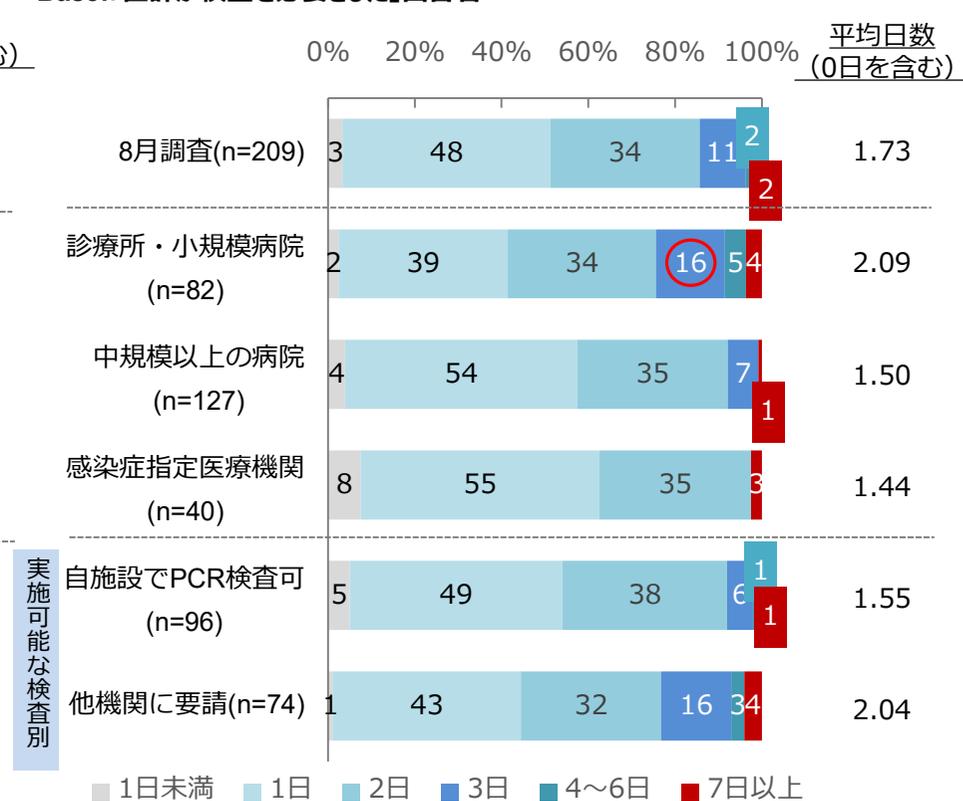
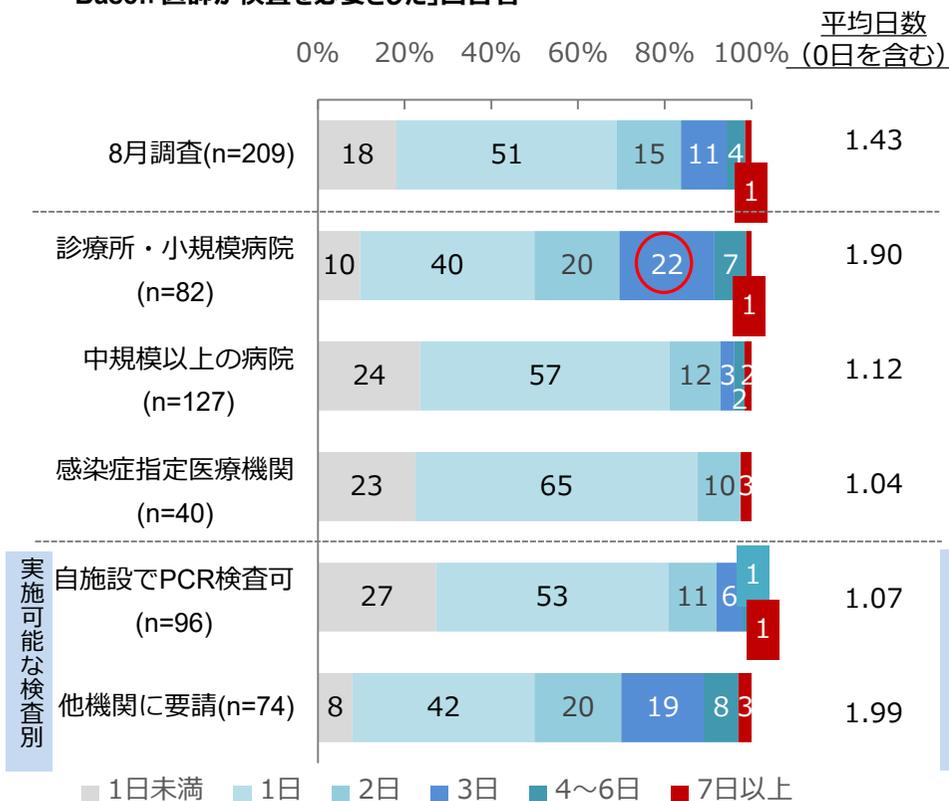
- 検査にかかる日数を尋ねたところ、依頼してから検査実施までは「1日」が約半数を占め、0日を含む平均日数は1.43日。診療所・小規模病院では平均1.90日とやや日数がかかっており、「3日」以上が約3割含まれる。
- 実施してから結果が出るまでの日数は、「1日」が半数弱で最も多く、次いで「2日」が34%となっている。平均日数は1.73日であった。こちらも診療所・小規模病院で平均2.09日とやや長く、「3日」以上も4分の1程度いた。
- 可能な検査の回答別では、「他機関に要請する」とした回答者では、検査実施までの日数、検査後結果が出るまでの日数ともに、平均で約2日程度と長く、合計4日程度であった。

## 依頼してから検査実施までにかかる日数

## 実施してから結果が出るまでにかかる日数

Base:「医師が検査を必要とした」回答者

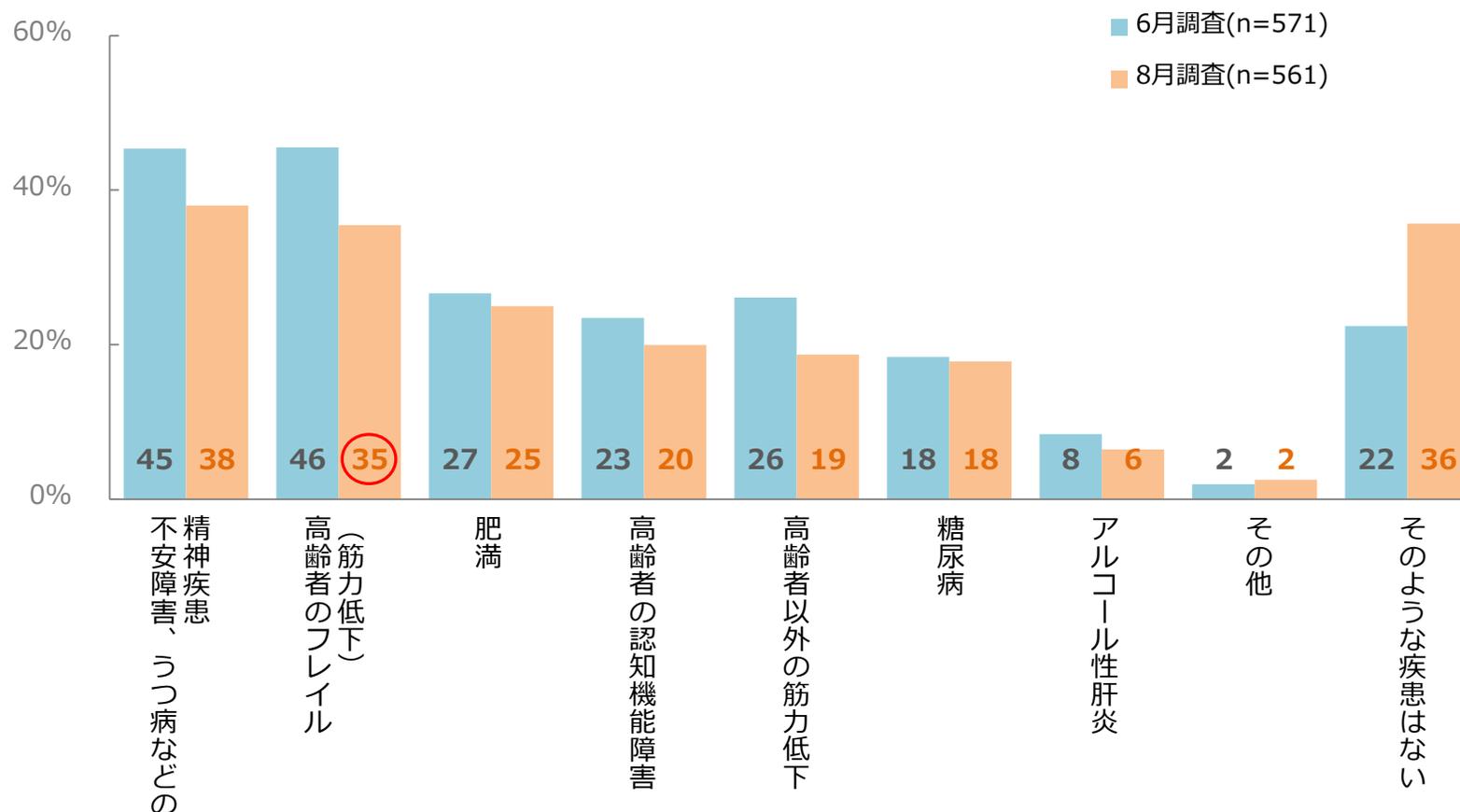
Base:「医師が検査を必要とした」回答者



Q9. お勤めの医療機関でのPCR検査、または、お勤めの医療機関経由で他の医療機関や保健所などへ委託される場合のPCR検査にかかる日数を教えてください。  
日数は、半角整数でお答えください (OA, -/-/-/-/8月調査)

# 増えつつある、症状が深刻化しつつある疾患

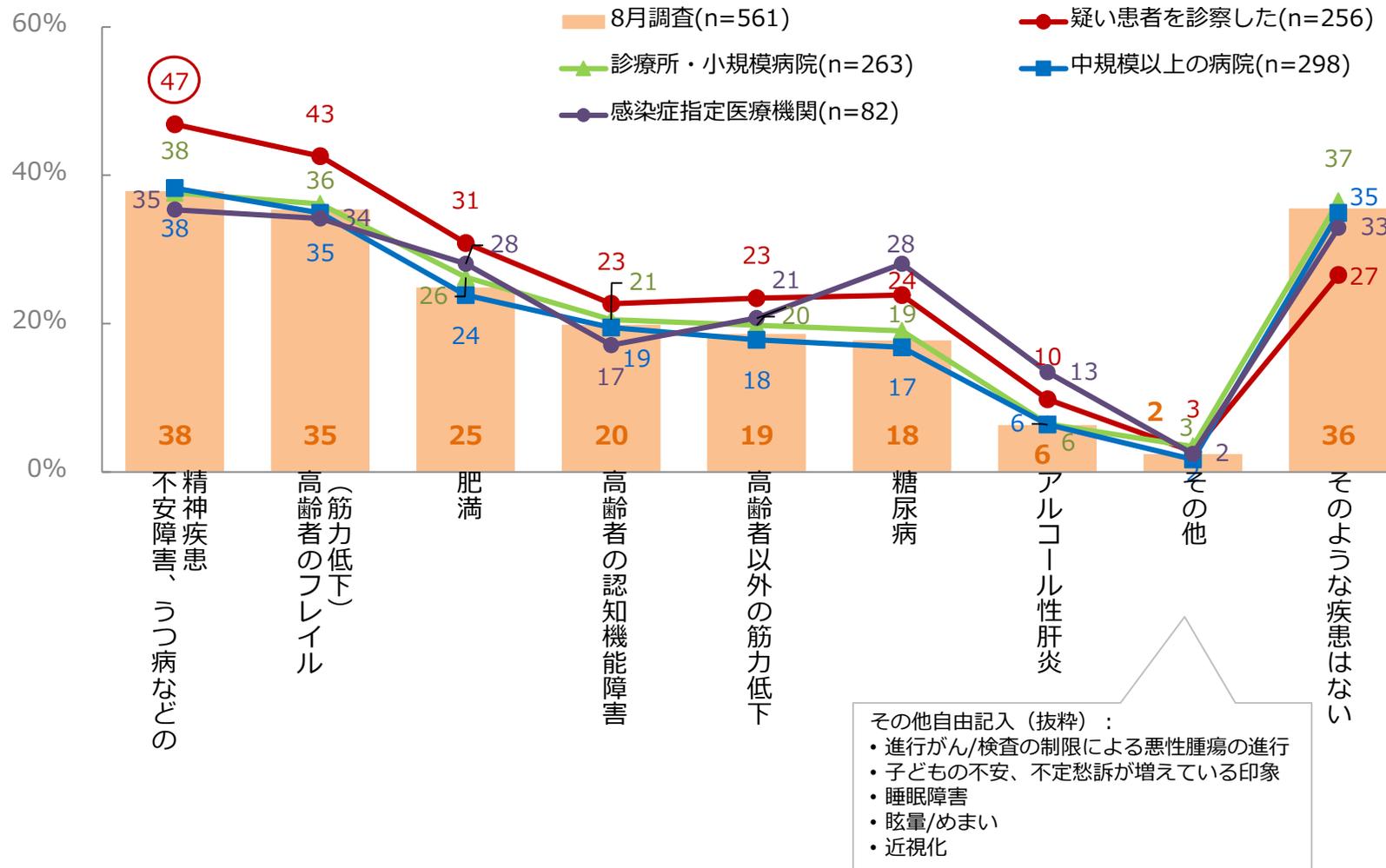
- 新型コロナウイルスの流行や生活環境の変化で、増えつつある、症状が深刻化しつつある疾患は、6月調査よりも選択率が全般的に低めとなり、「そのような疾患はない」が36%となった。
- 最も高かったのは「精神疾患」で、4割近くの回答医師が選択していた。「高齢者のフレイル」も3割台で続いた。



Q10. 新型コロナウイルスの流行、生活環境の変化などで、今増えつつある、症状が深刻化しつつある疾患をすべてお選びください (MA, -/-/-/6月/8月調査)

# 増えつつある、症状が深刻化しつつある疾患

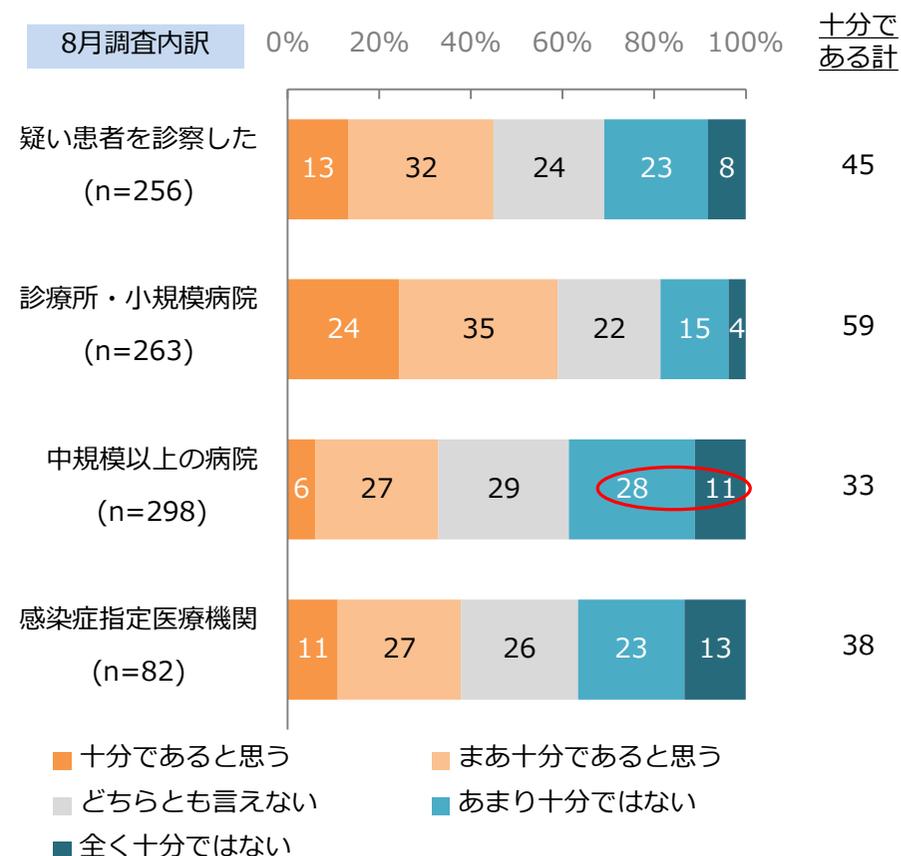
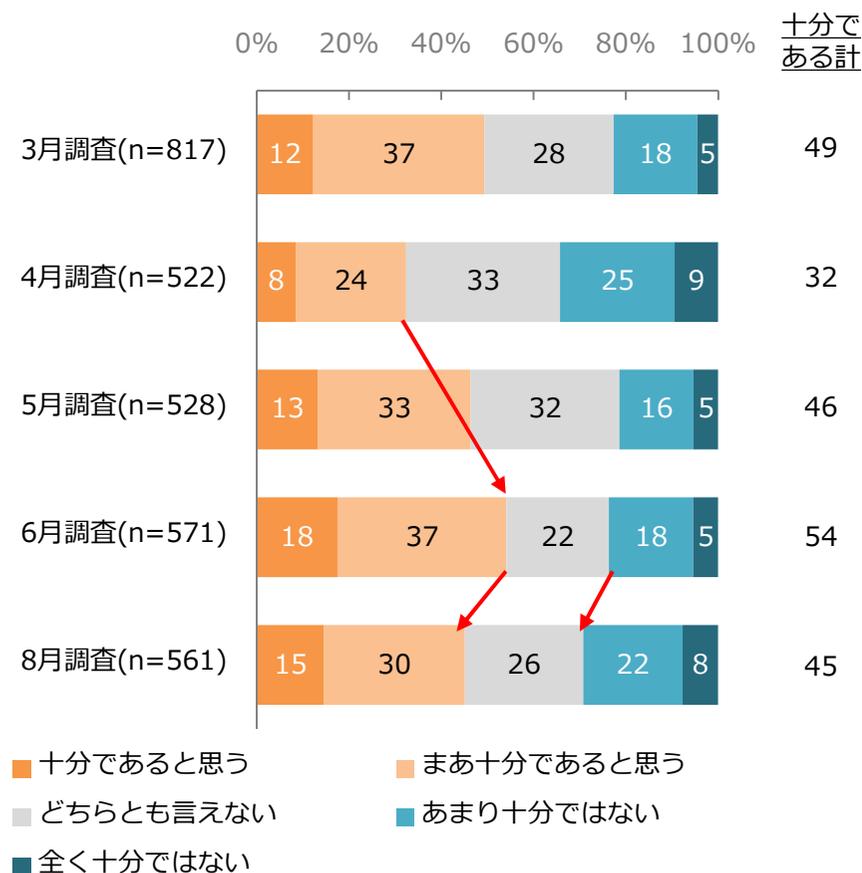
- 疑い患者を診察した医師の選択率が全般的にやや高め。特に「不安障害、うつ病などの精神疾患」では選択率が半数近くになる。
- 医療機関の規模別には、診療所・小規模病院と、中規模以上の病院の間の選択率はほぼ同レベル。感染症指定医療機関は、約3割が「糖尿病」を選択してやや高い。



Q10. 新型コロナウイルスの流行、生活環境の変化などで、今増えつつある、症状が深刻化しつつある疾患をすべてお選びください (MA, -/-/6月/8月調査)

# 医療スタッフは足りているか

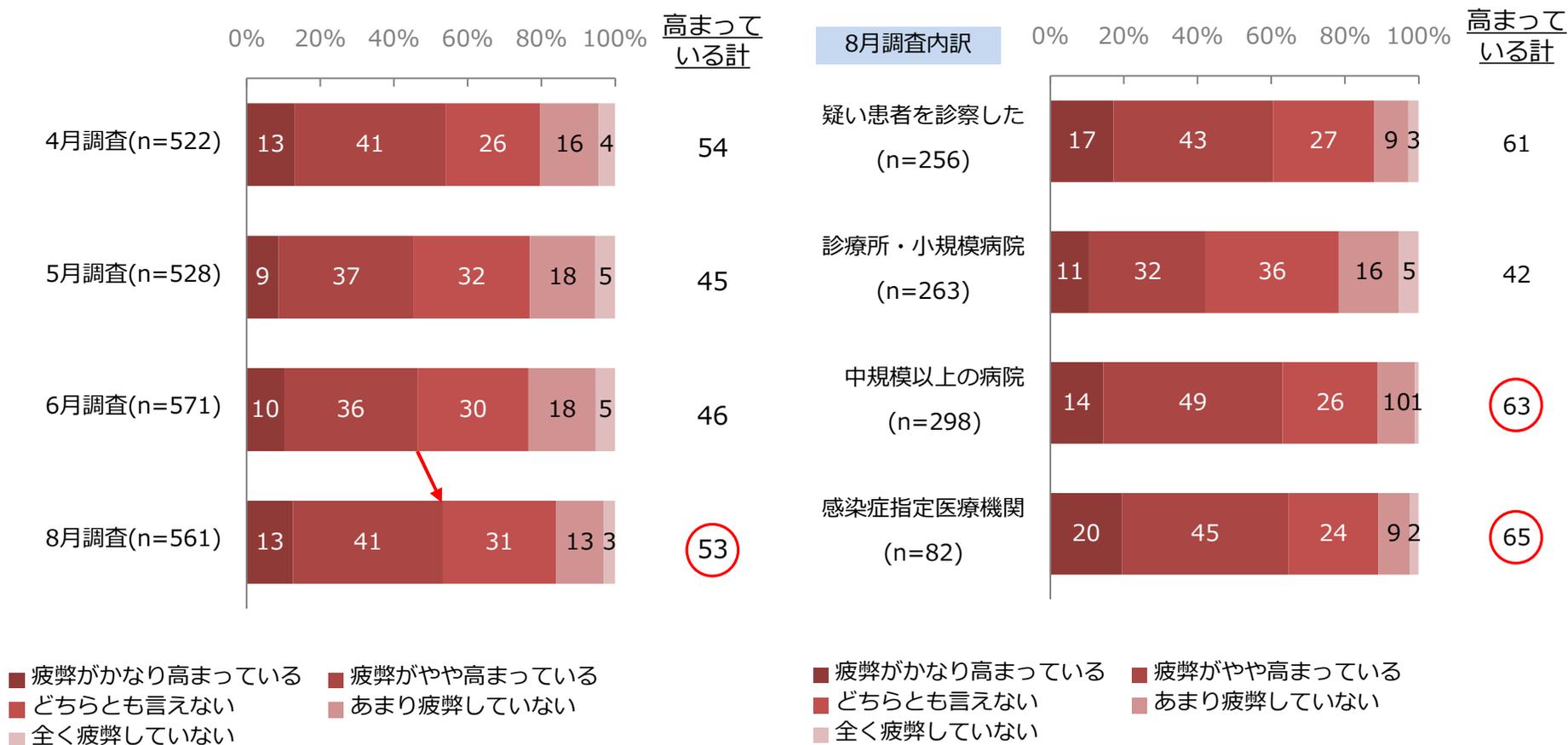
- 勤務先の医療スタッフ不足については、6月までは回復傾向が見られていたが、8月は「十分である」計が6月より9ポイント減少し、45%となった。8月の「十分でない」計は3割に上る。7月以降の第2波が影響した可能性がある。
- 医療機関種別で見ると中規模以上の病院では「十分である」計との回答は33%に留まり、診療所・小規模病院とは26ポイント、感染症指定医療機関と比べても5ポイントの開きがある。中規模以上の病院の「十分でない」計は、最も高く4割弱に達する。



Q11. 先生のお勤めの医療機関では、緊急対策の影響でスタッフの数が足りないなどの状況がありますか。お勤めの施設のスタッフ数についてお答えください (SA, 3月/4月/5月/6月/8月調査)

# 医療スタッフの疲弊度

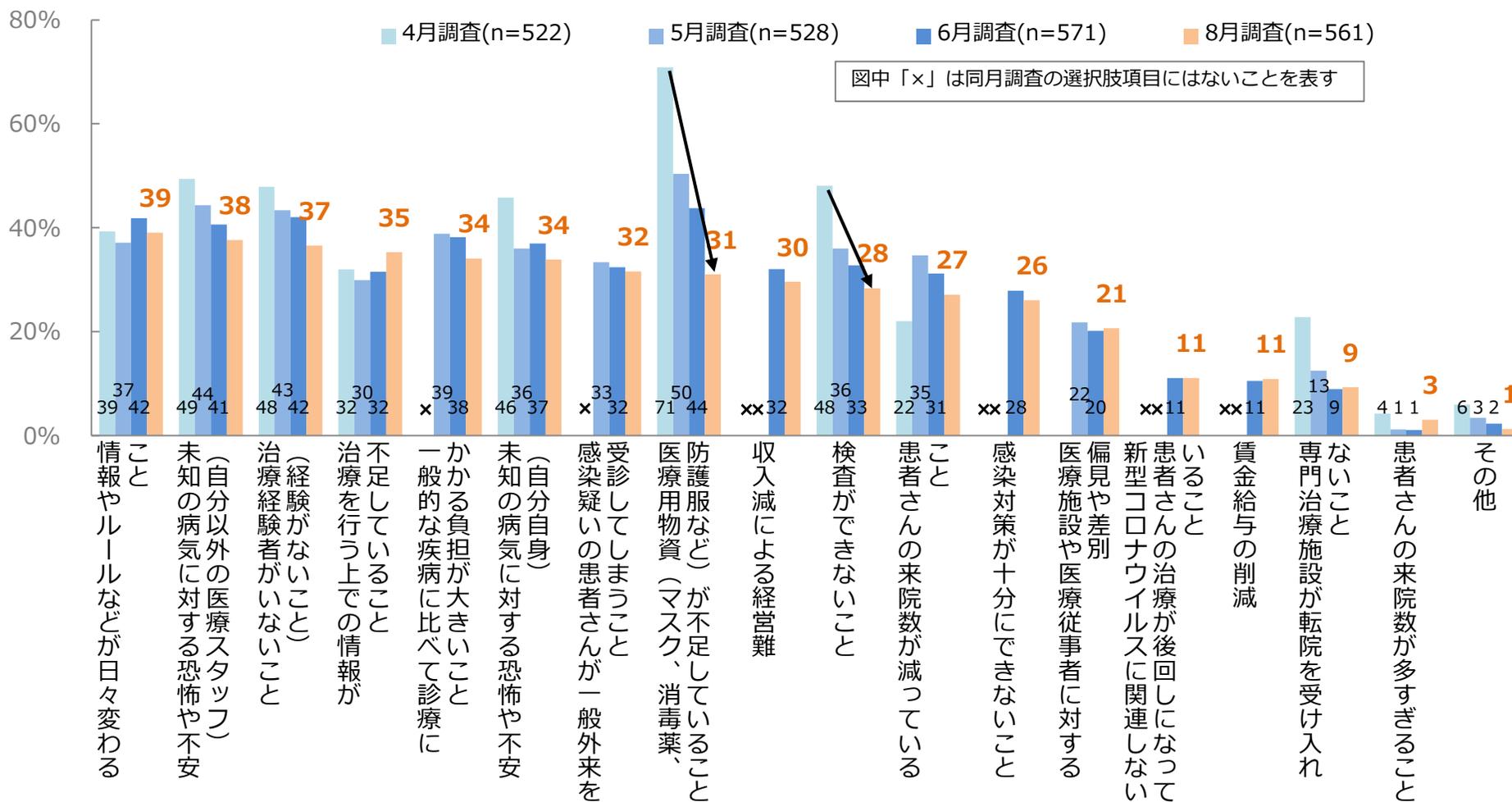
- 医療スタッフの疲弊度も6月より、「疲弊が高まっている」計が7ポイント増加し、53%となった。
- 疑い患者を診察した医師の中では疲弊が「高まっている」計が6割超、中規模以上の病院でも63%が回答。感染症指定医療機関では65%と、特定の医療機関に負荷が集中している様子がうかがえる。



Q12. 先生のお勤めの医療機関では、コロナウイルス感染症の影響で医師を含む医療従事者の疲弊が高まっていると思われませんか (SA, -/4月/5月/6月/8月調査)

# 医療現場で困っていること

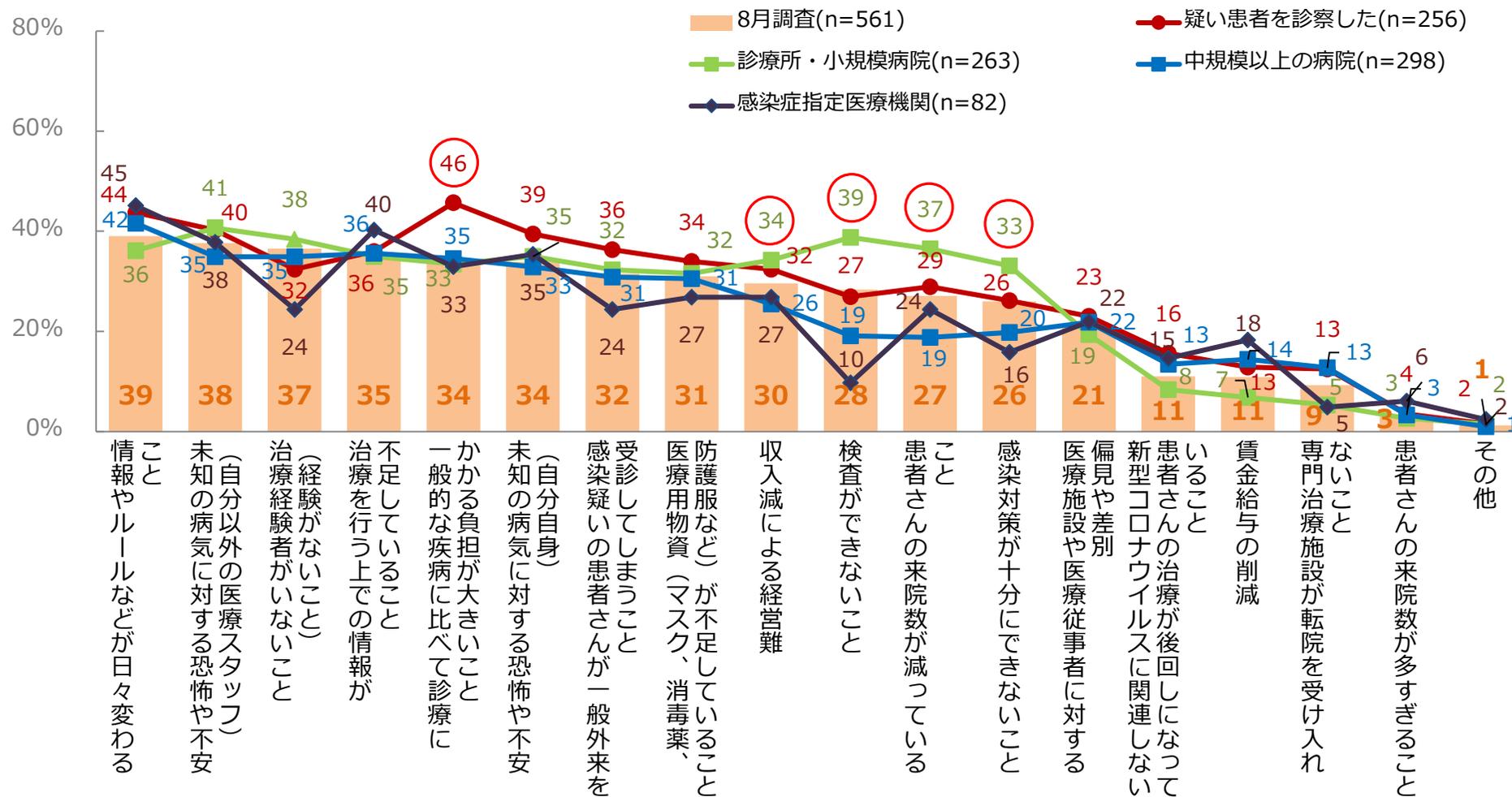
- 医療現場で困っていることを選択率は、8月調査では全体的に下がっている。4月時点で最も多かった「医療用物資の不足」は月ごとに大きく減少、6月と比べて、13ポイントの著しい減少。4月時点では、2番目に多かった「検査ができないこと」も6月より5ポイント減少。「未知の病気に対する恐怖や不安(自分以外のスタッフ)」、「治療経験者がいないこと」なども、時間が経過していく中で、月ごとに減少傾向を示している。
- 一方で、「情報やルールなどが日々変わること」、「治療を行う上での情報が不足していること」などは改善が見られていない。



Q13. 最前線で「新型コロナウイルス」に対応する医師として、今、現場で先生が特に困っていることはなんですか。あてはまるものをすべてお選びください (MA, 3月/4月/5月/6月/8月調査)

# 医療現場で困っていること

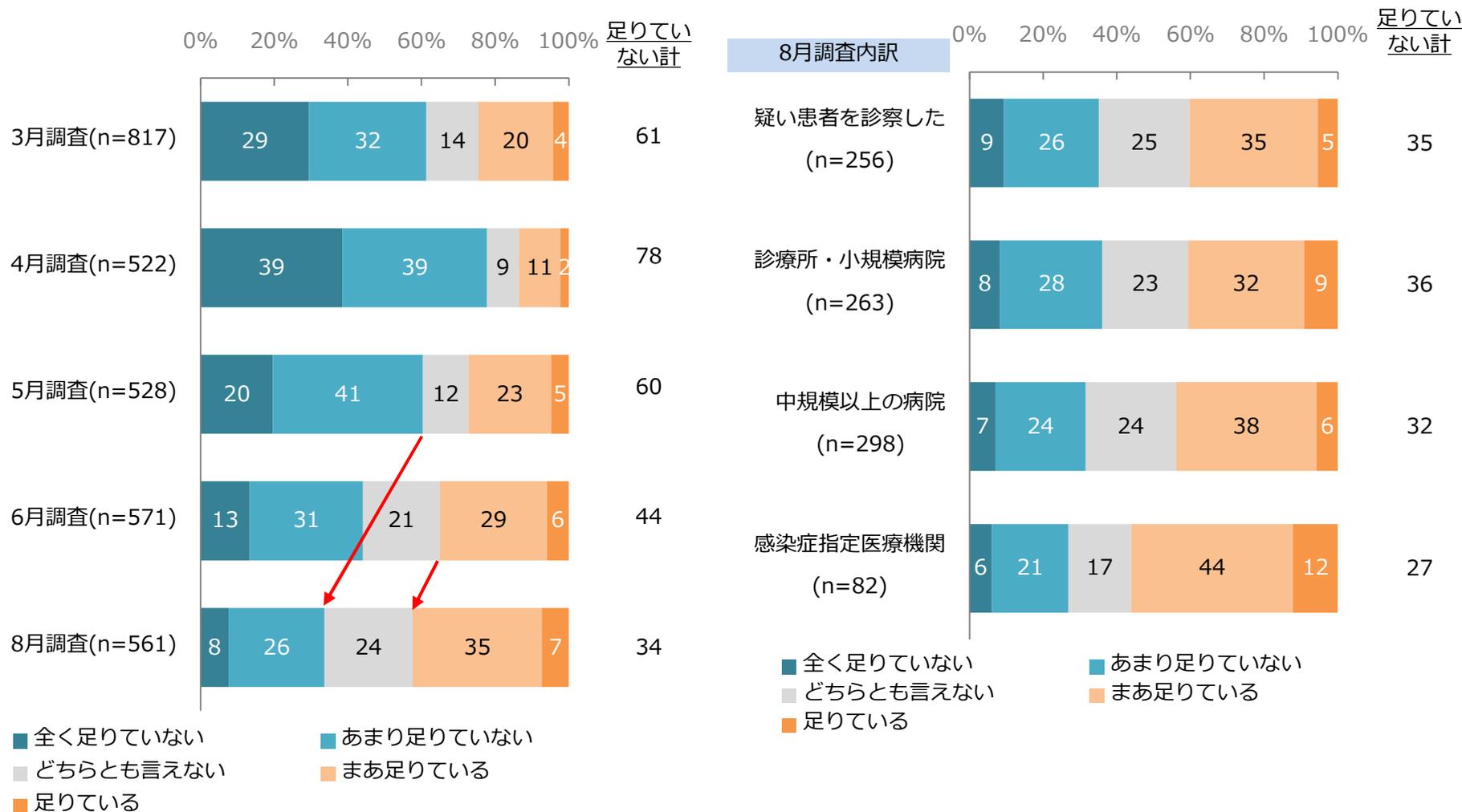
- 一貫して、疑い患者を診察した医師の選択率が高く、「一般的な疾病に比べて診療にかかる負担が大きい」を半数近くが選択した。
- 診療所・小規模病院では、「検査ができないこと」が最も多く選択され、39%に上る。「患者さんの来院数が減っていること」も引き続き多く、37%。「収入源による経営難」「感染対策が十分にできない」も中規模以上の病院に比べて高い選択率を示す。院長が8割弱を占めるこのグループは、経営に直結する課題がより多く選択される傾向が見られる。



Q13. 最前線で「新型コロナウイルス」に対応する医師として、今、現場で先生が特に困っていることはなんですか。あてはまるものをすべてお選びください (MA, 3月/4月/5月/6月/8月調査)

# 必要な医療資材の充足状況

- 6月に4割超を占めた「全く+あまり足りていない」が、10ポイント減少し、8月は34%に留まり、「足りている」計が4割を超えた。資材不足は、月ごとに改善の傾向が続いている。
- 資材の不足感は、ひき続き、診療所・小規模病院＞中規模以上の病院＞感染症指定医療機関の順で少なくなる。

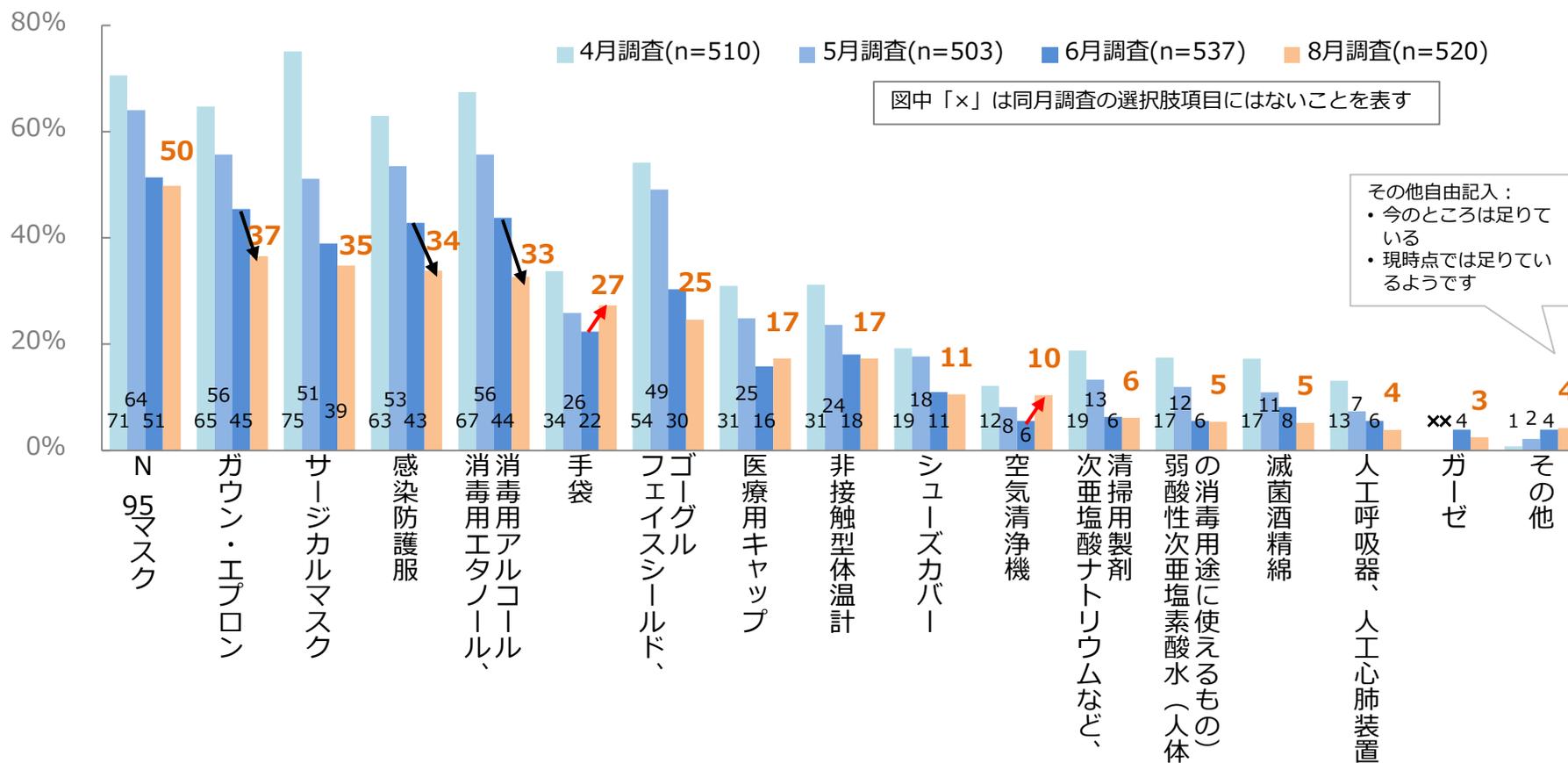


Q14. 先生のお勤めの医療機関では、医療用マスクや、ゴーグル、防護服など感染症診療の際に必要な資材は足りていますか (SA, 3月/4月/5月/6月/8月調査)

# 不足している医療資材

- 不足している資材の選択率の全般的な減少傾向が続いている。  
しかしながら、8月調査でも、「N95マスク」が不足しているとの回答は半数の50%。「ガウン・エプロン」「サージカルマスク」「感染防護服」「消毒用エタノール、消毒用アルコール」も3割超が不足していると回答している。
- 6月調査との比較で減少率が高いのは、「ガウン・エプロン」「感染防護服」「消毒用エタノール」で10ポイント前後減少した。一方、「手袋」「空気清浄機」は5ポイント増加した。

Base: Q14資材が「足りている」を除く回答者

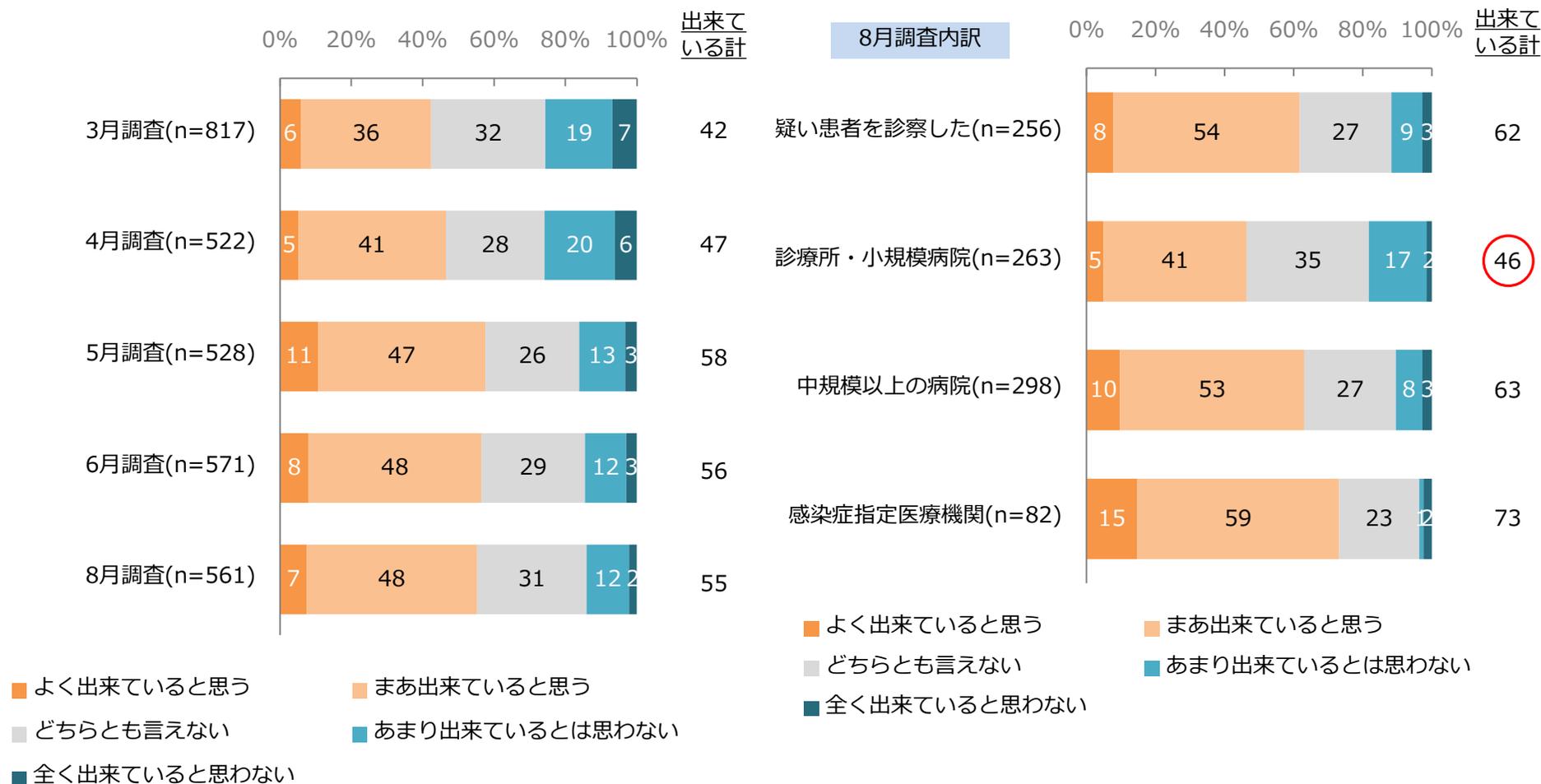


Q15. お勤めの医療機関で、不足している／ストックが残り少ないものがありましたら、下記のリストからあてはまるものをすべてお選びください (MA, -/4月/5月/6月/8月調査)



# 院内感染対策について

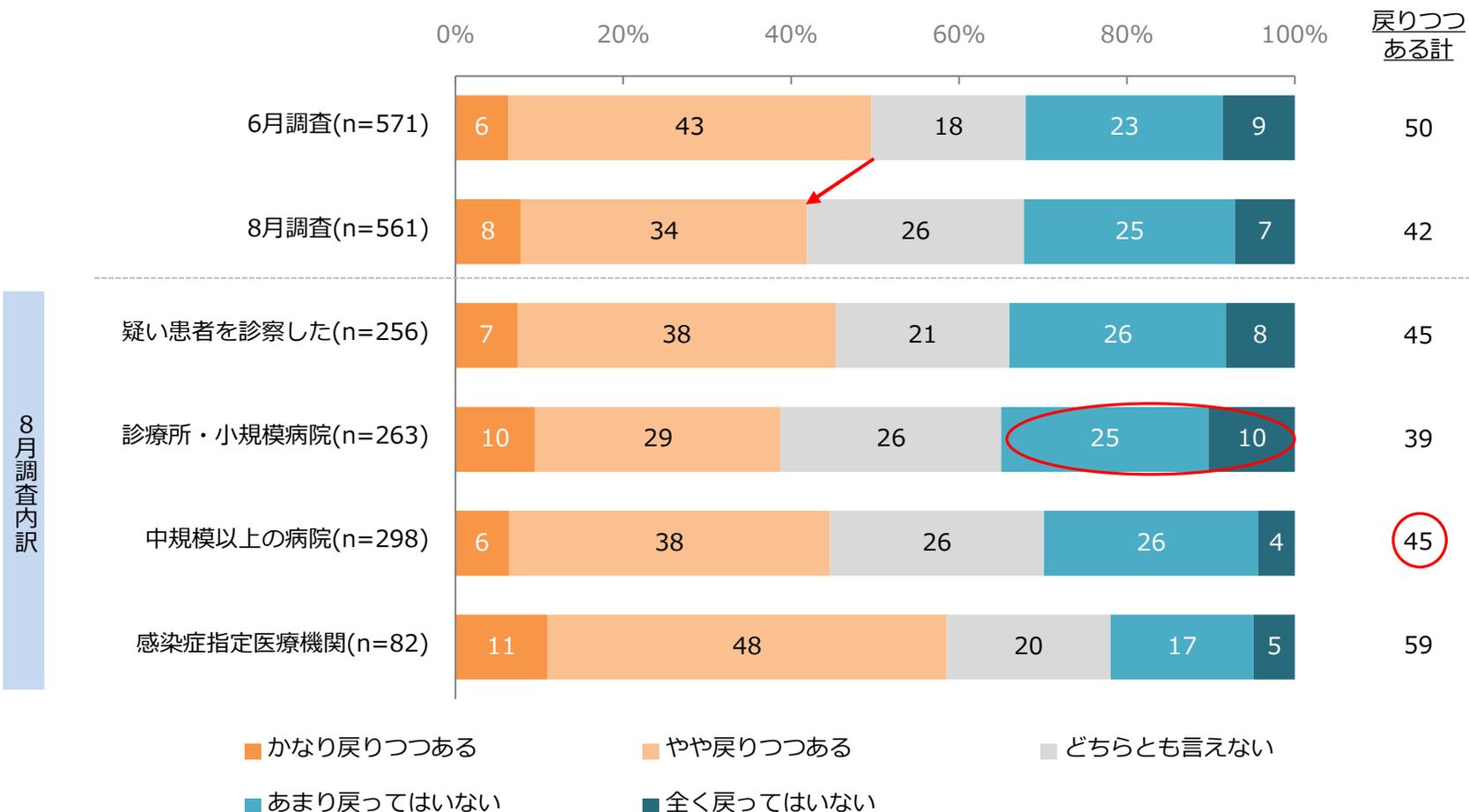
- 院内感染対策については「出来ている」との回答が5月まで増加傾向にあったが、8月は6月調査と同レベルの55%となった。
- 医療機関種別では、感染症指定医療機関の「出来ている」が7割超と最も高い。診療所・小規模病院は46%と他グループに比べて大きな開きがある。



Q16. 先生は、院内の感染対策についてどのようにお考えでしょうか (SA, 3月/4月/5月/6月/8月調査)

# 来院患者数の状況

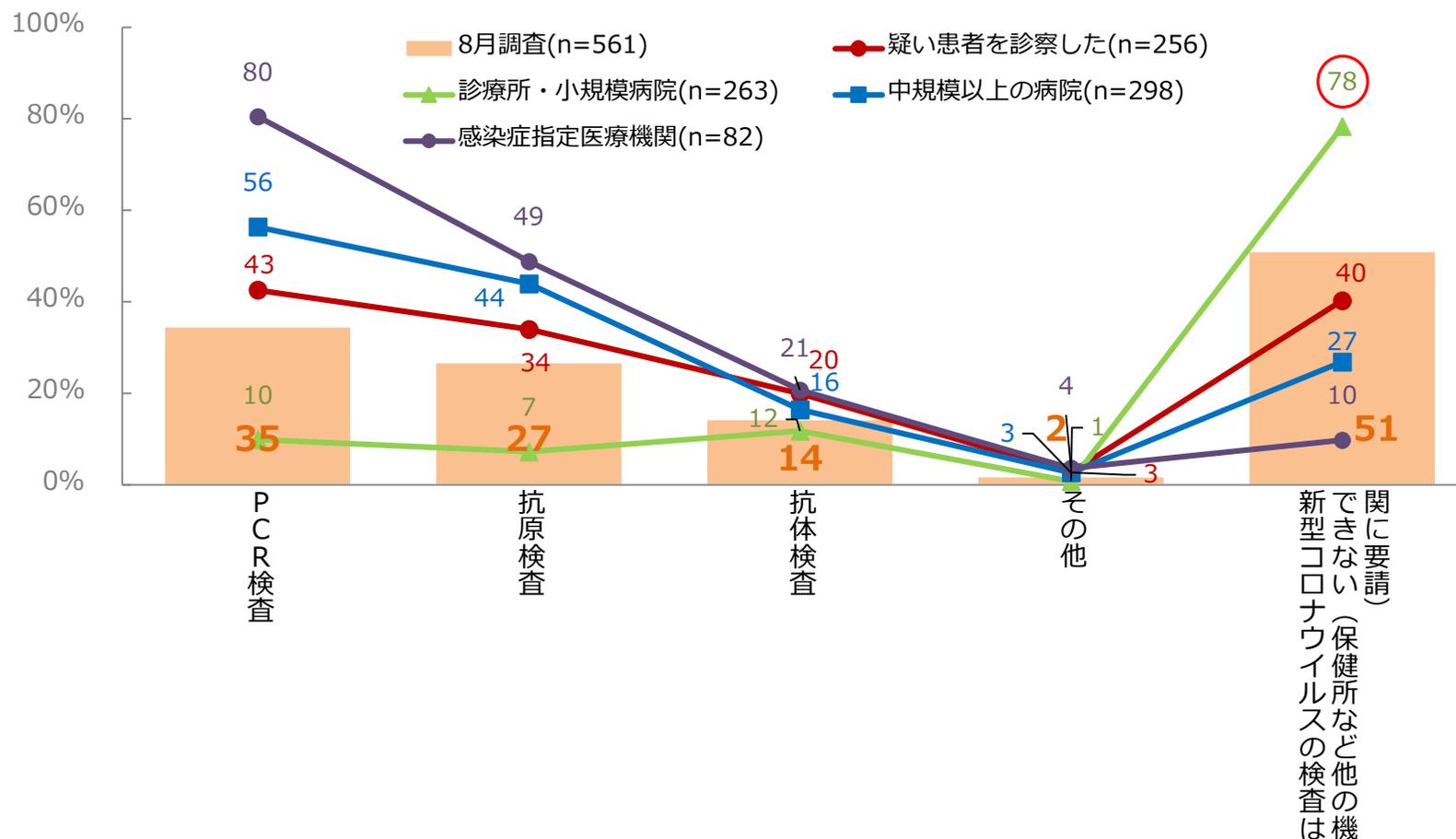
- 来院患者数が、新型コロナウイルス拡大以前の状況に戻りつつあると思われるかを聞いたところ、8月は「かなり」8%と「やや」34%をあわせ、全体の4割超の医師が「戻りつつある」と回答した。6月に比べ、8ポイント減少しており「戻ってはいない」計も全体の3割超を占める。6月時点より、来院患者数が戻っていない実感があるようだ。
- 戻りつつある実感は、疑い患者を診察した医師の半数近く。医療機関の種別にみると感染症指定医療機関>中規模以上の病院>診療所・小規模病院。診療所・小規模病院では、「戻っていない」が35%に上る。



Q17. 先生のお勤めの医療機関では、来院患者数は新型コロナウイルス拡大以前の状況に戻りつつあると思われますか(SA, -/-/6月/8月調査)

# 実施可能な検査

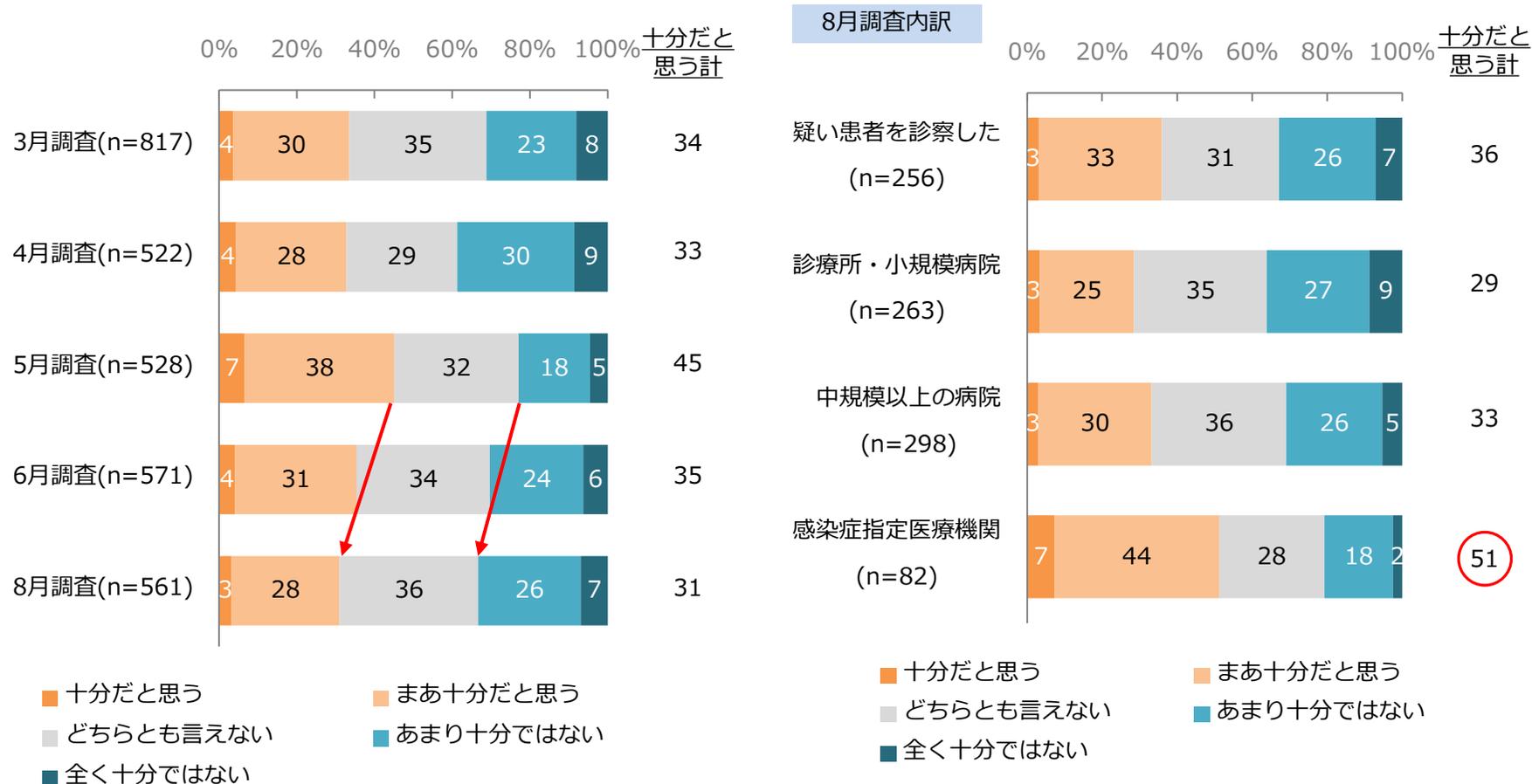
- お勤めの医療機関で実施可能な検査を聞いた。「PCR検査」が最も高く全体の35%を占め、「抗原検査」が27%、「抗体検査」が14%と続く。「新型コロナウイルスの検査はできない(保健所など他の期間に要請)」は全体の過半数を占める。
- 当然のことながら、医療機関のグループによって選択率が大きく異なり、PCR検査、抗原検査の「感染症指定医療機関」の選択率が高い。ただし、「抗体検査」は、いずれのグループも選択率が1~2割程度に留まる。診療所・小規模病院は、「検査ができない」が8割弱に上る。



Q18. 先生がお勤めの医療機関における新型コロナウイルスの検査体制についてお伺いします。お勤めの医療機関で実施可能な検査を教えてください  
(MA, -/-/-/-/8月調査)

# 新型コロナウイルスに関する情報の入手

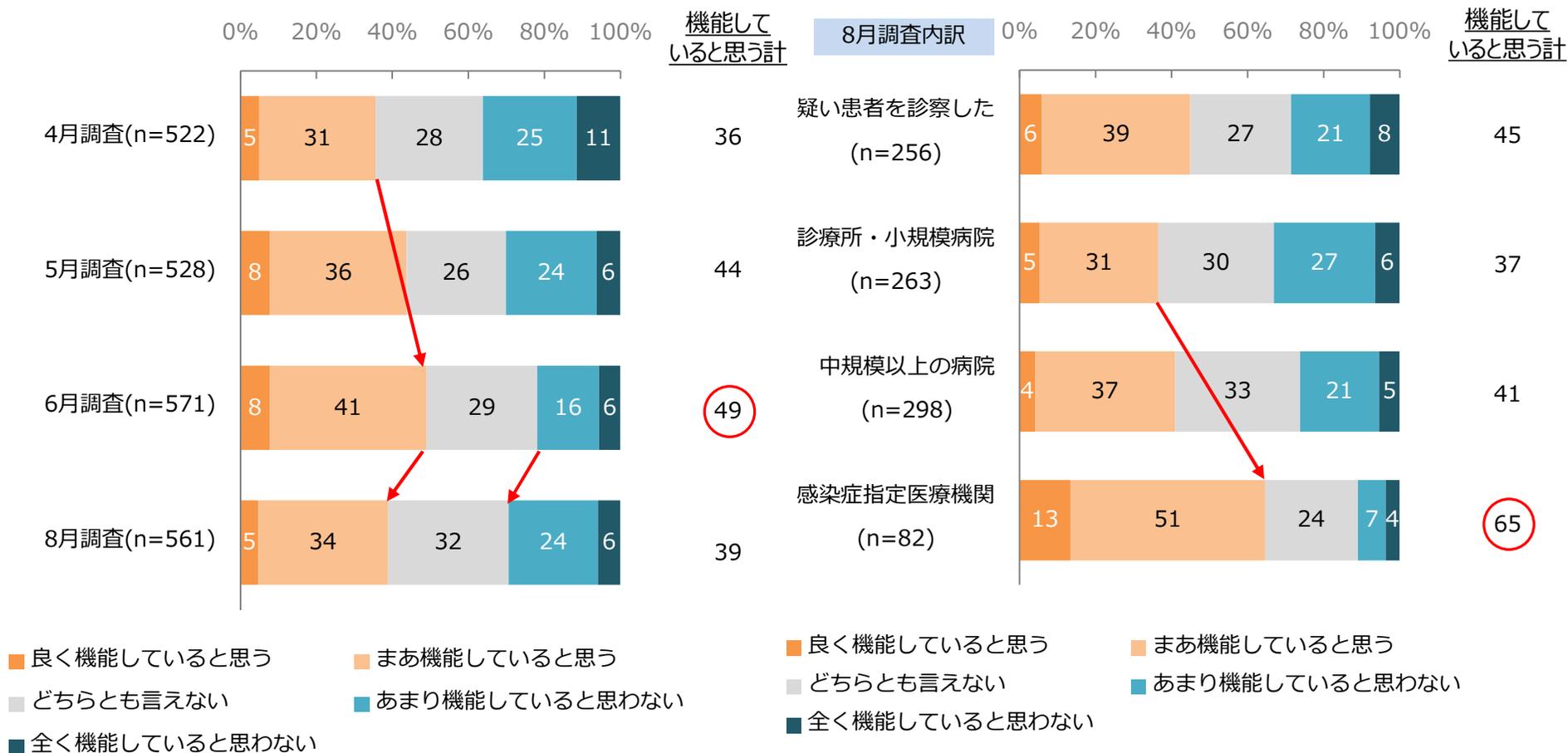
- 新型コロナウイルス感染の疑いのある患者を診るうえで情報が十分入手出来ているかについて尋ねた質問では、6月調査に比べ、「十分ではない」が若干増加傾向。5月以降、情報不足を感じる医師が増える傾向が続いている。
- 診療所・小規模病院では情報の入手が「十分だと思う」は3割弱に留まっている。中規模以上の病院や感染症指定医療機ほどには情報が届いていない傾向が、3月の調査開始以降一貫して見られる。



Q19. 先生は、新型コロナウイルスが疑われる患者さんを診るうえで、必要な情報は十分に入手出来ていると思えますか (SA, 3月/4月/5月/6月/8月調査)

# 受診相談窓口は機能しているか

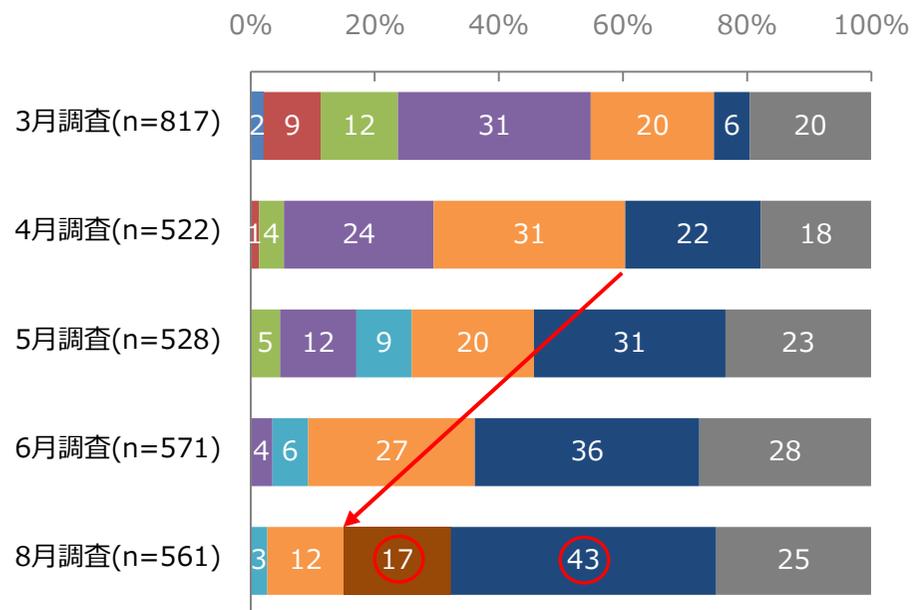
- 都道府県が設置する「新型コロナウイルス受診相談窓口」について、「機能している」と回答した医師は6月調査から10ポイント減少し、4割弱に留まった。6月までは月ごとに増加を示していたが、7月以降の第2波を受け、「機能していない」実感が増えた影響があるかもしれない。
- 医療機関種別では、従来同様診療所・小規模病院<中規模以上の病院<感染症指定医療機関の順に、「機能している」計の割合が高くなり、感染症指定医療機関では65%に上る。



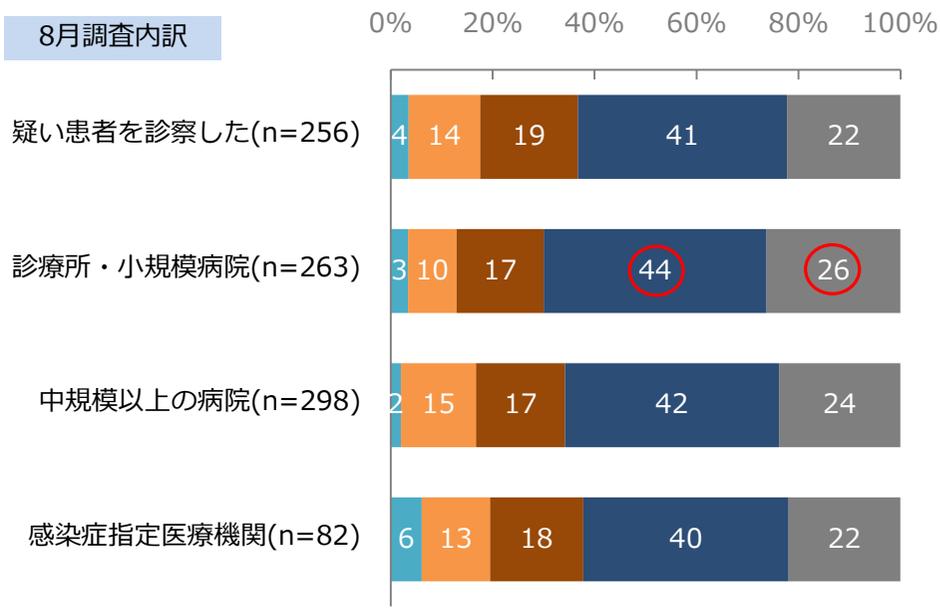
Q20. 先生がお勤めの地域では、保健所や帰国者・接触者相談センターなどの都道府県が設置する「新型コロナウイルス受診相談窓口」が正しく機能しているとお考えですか (SA, -/4月/5月/6月/8月調査)

# 新型コロナウイルスの収束時期予測

- 感染の流行がいつまで続くと思うかについては、3月調査以降一貫して「2～3年かかるのではないか」の回答が増加し、8月調査では43%に達した。4月時点で6割超だった「来年の春ごろ」までが、月ごとに減少し、8月時点では15%に留まる。同じく、「収束しない」も5月以降増加傾向、8月は25%に上る。8月に選択肢を追加した「来年の夏ごろ」は、17%が選択した。
- 8月調査について医療機関種別を見ると、診療所・小規模病院では、「2～3年」、「収束しない」の回答が若干多い傾向にある。



- (3月中に収束するだろう)
- (4月中)
- (5月中)
- (今年の夏ごろ)
- 半年後(今年の秋ごろ)
- 来年の春ごろ
- 来年の夏ごろ ※8月調査で追加
- 2~3年かかるのではないか
- 収束しない(季節性インフルエンザの様に不定期に流行が起きる)

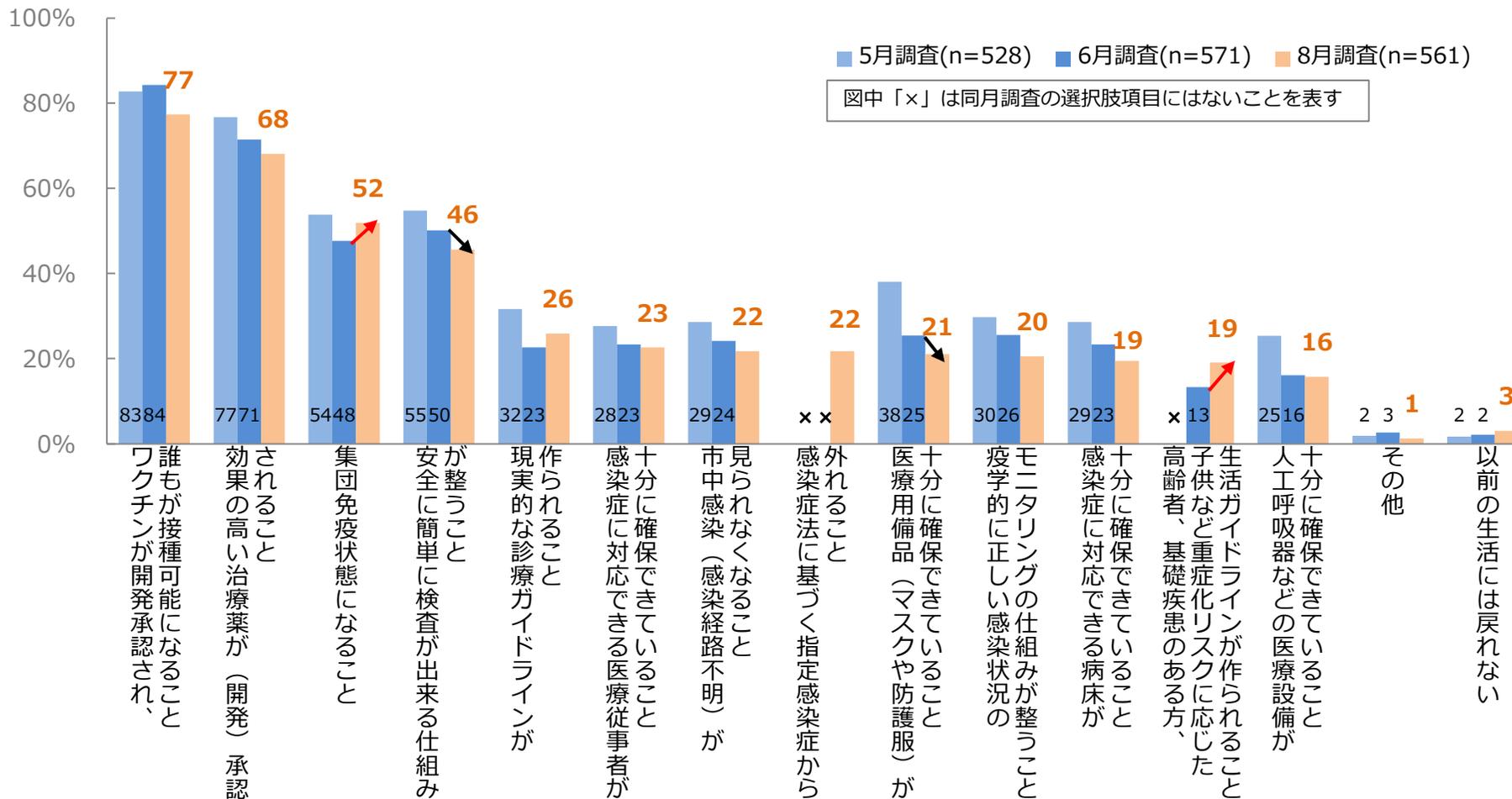


- 今年の秋ごろ
- 来年の春ごろ
- 来年の夏ごろ ※8月調査で追加
- 2~3年かかるのではないか
- 収束しない(季節性インフルエンザの様に不定期に流行が起きる)

Q21. 先生はこの新型コロナウイルスの流行はいつまで続くとお考えでしょうか (SA, 3月/4月/5月/6月/8月調査)

# 感染拡大以前の生活に戻るために必要なこと

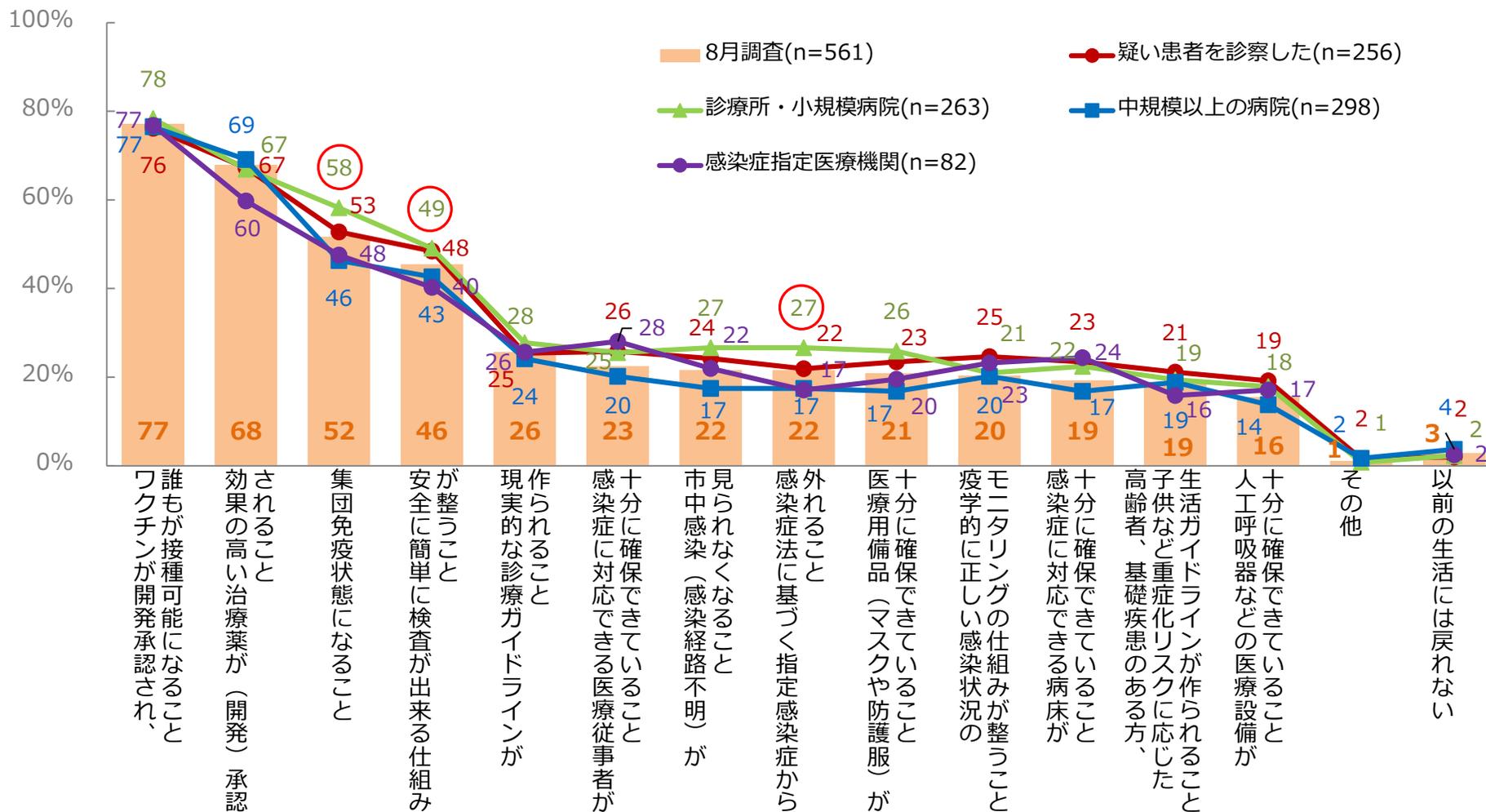
- 感染拡大以前の生活に戻るために必要なことについては、6月に比べ8月は全般的に選択率がやや低めの傾向が続いている。全体の8割弱が「ワクチンが開発承認され誰もが接種可能に」を挙げトップ、「効果の高い治療薬の開発承認」の68%、「集団免疫状態になること」が5割で続いている。
- 6月時点より、「安全に簡単に検査が出来る仕組みが整うこと」は若干減少したものの4割超が挙げている。「集団免疫状態になること」は若干増加、「高齢者、基礎疾患のある方、子どもなど重症化リスクに応じた生活ガイドラインが作られること」は6ポイント増加した。医療用物資不足が改善され、検査体制が拡充されつつあるなか、個々の患者への生活ガイドラインのニーズが顕在化した現状を反映している可能性がある。



Q22. 感染拡大以前の生活に戻るために、先生が考える条件として、先生が必要と思われるものをすべてお選びください (MA, -/-/5月/6月/8月調査)

# 感染拡大以前の生活に戻るために必要なこと

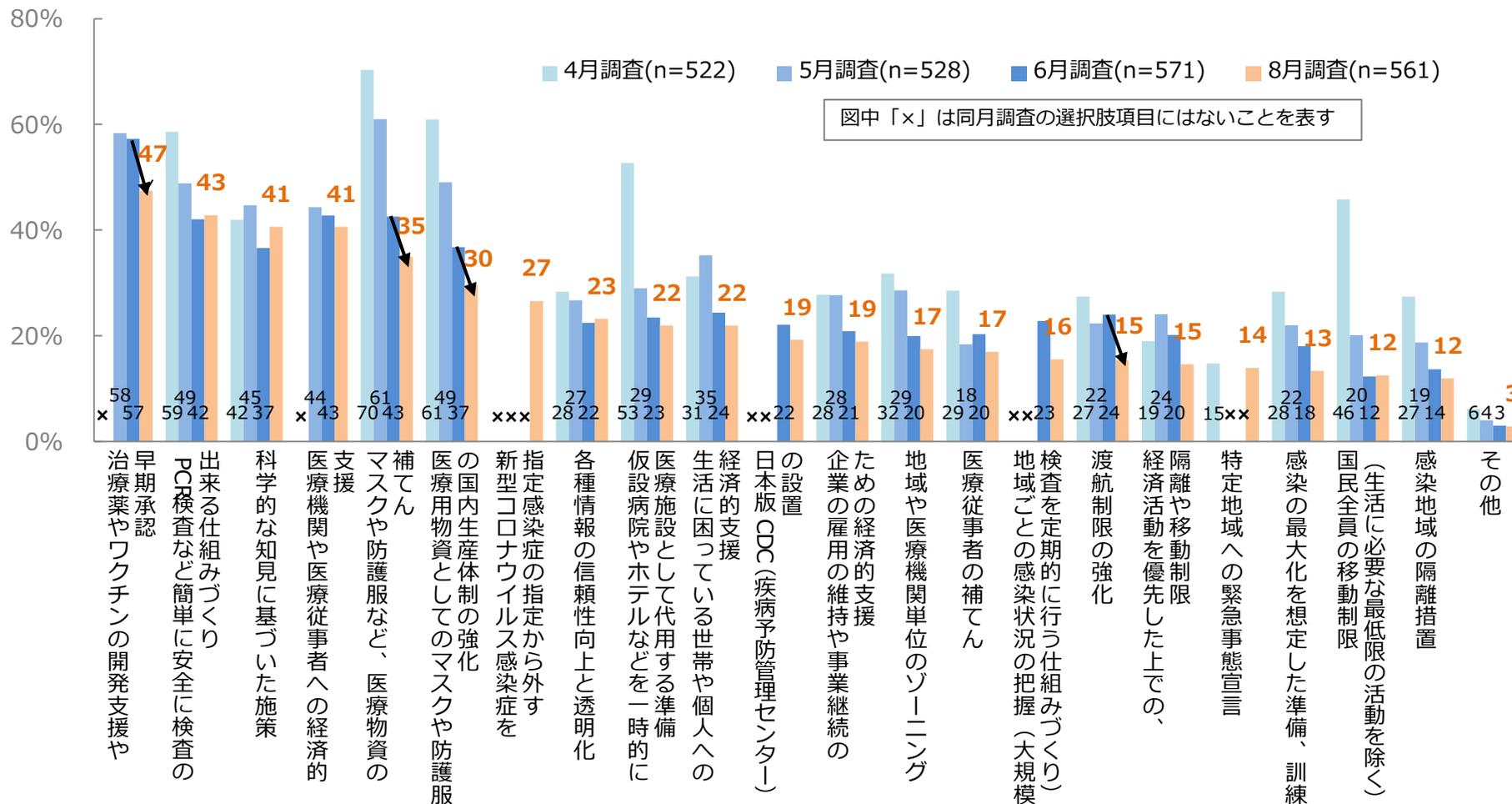
- 診療所・小規模病院は「集団免疫状態になること」の選択率が58%、「安全に簡単に検査が出来る仕組みが整うこと」が5割弱とやや高め。



Q22. 感染拡大以前の生活に戻るために、先生が考える条件として、先生が必要と思われるものをすべてお選びください（MA, -/-/5月/6月/8月調査）

# 政府や行政が行うべき対策

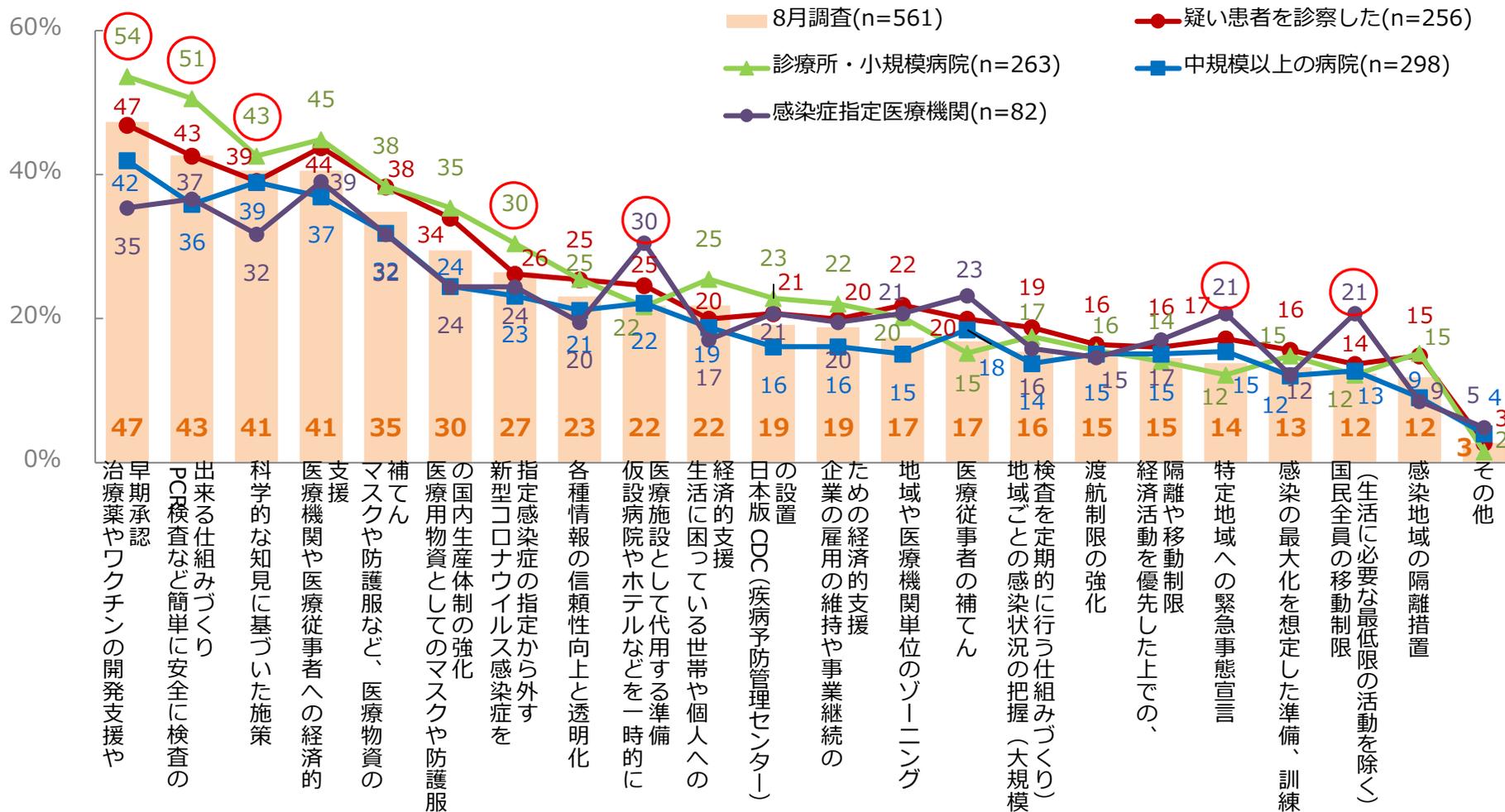
- 全般的に8月は選択率が微減傾向を示した。政府や行政が行うべき対策について、最も多く挙げたのは、6月に引き続き「治療薬やワクチンの開発支援や早期承認」の47%。次いで「安全に検査の出来る仕組みづくり」「科学的な知見に基づいた施策」「医療機関や医療従事者への経済的支援」が4割超と続く。5月までTOPだった「医療物資の補てん」は、6月時点より8ポイント減少し、35%に留まる。「医療用物資としてのマスクや防護服の国内生産の強化」も、6月時に比べ7ポイント低下した。
- 新たに聞いた「新型コロナウイルス感染症を指定感染症の指定から外す」は3割弱が選択した。



Q23. 政府や行政が行うべき新型コロナウイルス対策として、今後、先生が特に必要と考えることはなんですか。あてはまるものをすべてお選びください (MA, 3月/4月/5月/6月/8月調査)

# 政府や行政が行うべき対策

- 医療機関規模別にみると、診療所・小規模病院は全般的に選択率が高めで、特に「治療薬やワクチンの開発支援や早期承認」「簡単に安全に検査の出来る仕組み作り」「医療機関や医療従事者への経済的支援」「医療物資の国内生産体制の強化」を他グループより強く求めている。
- 感染症指定医療機関は、「仮設病院やホテルなどを一時的に医療施設として代用する準備」「特定地域への緊急事態宣言」「国民の移動制限(生活に必要な最低限の活動を除く)」がやや高め。

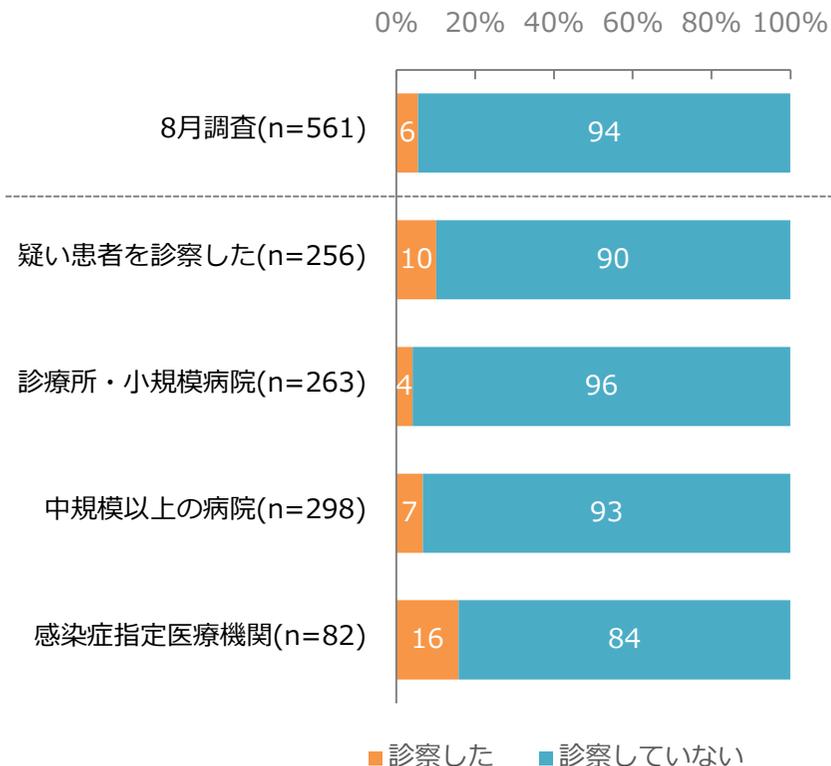


Q23. 政府や行政が行うべき新型コロナウイルス対策として、今後、先生が特に必要と考えることはなんですか。あてはまるものをすべてお選びください (MA, 3月/4月/5月/6月/8月調査)

# 後遺症と思われる症状の診察経験有無と内容

- 新型コロナウイルス感染後に回復したが、その後遺症と思われる症状を診察したかについては、全体の6%が診察したと回答。感染症指定医療機関の16%、疑い患者を診察したでは10%。
- 具体的な後遺症の症状内容は、「味覚障害・臭覚障害」、「うつや不安などのメンタル面」「だるさなど倦怠感」「息苦しさ」などがみられた。

## 後遺症と思われる患者の診察をしたか



## 具体的な後遺症の症状内容 (都道府県・主診療科目)

### 【味覚障害・臭覚障害】

- ・味覚障害 (埼玉県・脳神経外科) (東京・内科) (福岡県・呼吸器内科) (埼玉県・眼科) (埼玉県・内科) 他
- ・味覚嗅覚障害 (大阪府・消化器科内科 (胃腸内科))
- ・味覚がないこと (茨城県・内科)
- ・嗅覚異常の不変 (岐阜県・腎臓内科)

### 【メンタル面】

- ・悪夢を見る (東京23区外・内科)
- ・易疲労感、うつ状態 (大阪府・内科)
- ・精神的な不安 (大阪府・泌尿器科)
- ・常にコロナにおびえているという精神状態 (茨城県・内科)

### 【倦怠感】

- ・だるさが取れないこと (茨城県・内科)
- ・しんどさです (岡山県・内科)
- ・倦怠感 (福岡県・外科)
- ・全身倦怠感 (大阪府・消化器科内科)

### 【微熱】

- ・微熱が持続していること (茨城県・内科)
- ・微熱の持続 (岐阜県・腎臓内科)
- ・微熱 (福岡県・外科)

### 【痺れ】

- ・しびれ (福岡県・外科)
- ・神経障害 (北海道・内科)

### 【息苦しさ】

- ・呼吸困難症状 (京都府・外科)
- ・息苦しさ (東京都・小児科)
- ・体を動かすとすぐに息苦しくなる。(京都府・精神科)
- ・呼吸困難 (滋賀県・循環器内科)

### 【肺炎等】

- ・間質性肺炎 (呼吸困難)、廃用症候群 (筋力低下) (兵庫・放射線科)
- ・肺線維症 (東京23区外・内科)
- ・退院後にCTを受けにきたが、肺野に炎症像がしっかり残っていた (奈良・内科)
- ・肺障害 (埼玉県・内科)

### 【頭痛】

- ・頭痛 (神奈川県・皮膚科) (福岡県・外科)

### 【咳など呼吸器】

- ・咳がでる (山形・腎臓内科)

### 【その他】

- ・学童の生活リズムに及ぶ不調 (兵庫県・小児科)
- ・普通の感冒様ですね (愛知県・内科)
- ・嚥下困難 (北海道・呼吸器内科)

Q24. 新型コロナウイルス感染後に回復したが、その後遺症と思われる症状があった患者さんを診察されたことがありますか。(SA, -/-/-/-/8月調査)

Q25. 実際に後遺症と思われたのは、どのような症状内容でしたか。具体的に教えてください。(OA, -/-/-/-/8月調査)